

**不正接続検知／排除システム
IntraGuardian[®] 2**

一元管理ソフト

IntraGuardian2 Manager

スタートアップガイド

第21版

version 2.3.3用

2012/11/16

日本シー・エー・ディー株式会社

はじめに

このたびは、不正接続検知/排除システム IntraGuardian2（「本製品」）をお買い上げ、ならびに本製品に関する所定のユーザー登録をいただき、誠にありがとうございます。IntraGuardian2 Manager は、本製品の一元管理用ソフトウェア（「本ソフトウェア」）で、ユーザー登録済のお客様に、本製品の一元管理専用ソフトとして無償でご提供するものです。

本ソフトウェアでは、以下の製品を管理することができます。

名称	製品型番
IntraGuardian2	IG2-01PL
IntraGuardian2 EX 16セグメント対応版	IG2EX-16VL
IntraGuardian2 EX 8セグメント対応版	IG2EX-08VL

本ガイドの以降の記述で「IntraGuardian2」と表記している製品は、特に注記のない限り IntraGuardian2 EXを含みます。

本ソフトウェアをご利用の前に、本ガイドをご覧になり、正しくお使いください。本ガイドはダウンロード後は印刷等をして保存されることをお薦めします。本ソフトウェアをご使用になるには、Windows Server 2008R2、Windows Server 2003、または Windows XP Professional が必要です。

ご注意

- ・ 本ガイドの内容の一部でも無断転載することは禁止されております。
- ・ 本ガイドの内容は、将来予告なく変更することがございます。

開発元 日本シー・エー・ディー株式会社
〒161-0033 東京都新宿区下落合2-14-1 CADビル
<http://www.ncad.co.jp/>

目次

お願いとご注意	5
知的財産権等	5
免責事項について	5
ソフトウェア無償使用許諾契約	6
1 本ソフトウェアについて	7
1.1 本ソフトウェアの機能	7
2 インストール	9
2.1 IISのセットアップ	9
2.2 ファイルの展開	19
2.3 本ソフトウェアのセットアップ	21
3 管理画面へログイン	25
3.1 Webブラウザの起動	25
3.2 Manager PCのIPアドレスを入力	25
4 メニュー項目	27
5 IntraGuardian2 の登録	28
6 IntraGuardian2一覧	29
6.1 IntraGuardian2一覧の文字色	29
6.2 各欄の説明	30
6.3 検索とソート	30
6.4 IntraGuardian2 の登録削除	31
7 全登録済みPC一覧	32
7.1 PCの新規登録	34
7.2 登録済みPCの編集	35
7.3 登録済みPCの削除	36

7.4	WOLマジックパケットの送信.....	36
8	全不正接続PC一覧	37
8.1	PCの登録.....	37
8.2	保留時間設定	38
8.3	PCの一括登録.....	38
9	全検知履歴	39
9.1	PCの登録.....	40
9.2	PCの一括登録.....	40
9.3	全検知履歴の削除.....	40
10	PC移動履歴	41
10.1	特定のPCを移動検知対象外にする.....	42
10.2	PC移動履歴の削除	42
11	全例外IPアドレス一覧	44
11.1	例外IPアドレスの登録	44
11.2	例外IPアドレスの削除	45
12	IntraGuardian2 の設定	46
12.1	一括設定	46
12.2	特殊な設定	47
12.3	登録PCデータベースのコピー	48
12.4	NAT内の IntraGuardian2	49
13	ファームウェア更新.....	50
14	バックアップ/復元.....	53
15	Manager設定	55
15.1	生存確認	55
15.2	通知設定	55

15.4	外部システムとの連携	56
15.5	その他の設定	57
16	外部システム連携	59
16.1	登録PCデータの取り込み	59
16.2	取り込みファイルフォーマット	61
17	ユーザー管理	63
17.1	ユーザーの追加	63
17.2	ユーザーの編集	64
17.3	ユーザーの削除	64
18	パスワード設定	65
19	操作履歴	66
20	ログアウト	68
21	グループ管理	69
21.1	グループ管理機能を有効にする	69
21.2	グループの追加	70
21.3	グループの設定変更	71
21.4	グループの削除	71
21.5	グループの選択	72
21.6	ユーザーの追加・変更	73
22	アップグレードとアンインストール	74
22.1	旧 Manager のアンインストール	74
22.2	新 Manager のインストール	76
Appendix	77	
Appendix 1	ファイアウォール設定	77

お願いとご注意

- ・ 本ソフトウェアの無断複製・解析は禁止されております。
- ・ 本ソフトウェアに使用されている意匠、商標の無断使用は禁止されております。
- ・ 本ソフトウェアの転用は禁止されております。
- ・ 本ソフトウェアは日本国内の使用を前提として設計・開発・製造されていますので、海外では使用しないでください。
- ・ 本ソフトウェアは、一般的な情報通信回線用途として設計・製造されています。従って、生命、財産に著しく影響を及ぼすため高信頼性を要求される、制御・監視等のシステム（原子力発電設備、医療設備等の動作を制御または監視するシステム等）の用途では使用しないでください。

知的財産権等

- ・ IntraGuardian は日本シー・イー・ディー株式会社の登録商標（第5288137号）です。
- ・ 本製品に搭載されている不正接続検知／排除ソフトウェアに関する著作権その他の知的財産権は、日本シー・イー・ディー株式会社が所有するものです。
- ・ Windows, Internet Explorer は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- ・ Firefox は、米国 Mozilla Foundation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- ・ Safari は、米国Apple, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

免責事項について

- ・ 本ソフトウェアは現状有姿で提供され、本ソフトウェアに関しては、その品質および性能に関する保証を含め、いかなる明示または黙示の保証もありません。
- ・ 本ソフトウェアの使用または使用不能から生ずる一切の損害（情報内容の変化、情報の喪失、事業利益の喪失、事業の中断、他製品・システムへの損害などを含む）に関して、当社は責任を負いかねますので予めご了承ください。
- ・ 地震、雷、風水害、当社の責に帰さない火災、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意、過失、誤用、その他の異常な条件での使用により生じた損害に関して、当社は責任を負いかねますので予めご了承ください。
- ・ 本ガイドの記載内容を守らないことにより生じた損害に関して、当社は責任を負いかねますので予めご了承ください。
- ・ 当社指定外の機器、ソフトウェアとの組み合わせによる誤動作から生じた損害に関して、当社は責任を負いかねますので予めご了承ください。

ソフトウェア無償使用許諾契約

IntraGuardian2 Manager（以下、「本ソフトウェア」といいます）は、不正接続検知／排除システム IntraGuardian2（以下、「本製品」といいます）用の一元管理ソフトウェアです。また、IntraGuardianは、日本シー・エー・ディー株式会社（以下、「日本CAD」といいます）の商標です。

本ソフトウェアは、お買い上げいただいた本製品に関する所定のユーザー登録をお済のお客様が希望する場合、本ソフトウェア契約に同意することを条件に、かかる本製品の製造元からお客様に提供され、登録済本製品の一元管理専用として無償で使用できるものです。

1. 使用許諾

- ① 本ソフトウェアは、使用許諾されるものであり、販売されるものではありません。
- ② お客様には、お客様に設置されている本製品の一元管理を目的として、本製品とともに本ソフトウェアを使用する非独占的な権利が許諾されます。お客様は、当該目的以外では、本ソフトウェアを一切使用できません。
- ③ お客様は、本ソフトウェアを改変または複製できません。本ソフトウェアをベースにしたソフトウェアを作成することもできません。

2. 著作権等

- ① 本ソフトウェアに関する著作権その他の知的財産は、日本CADが所有しております。
- ② 本ソフトウェアに関する著作権その他のいかなる知的財産もお客様に譲渡されるものではありません。
- ③ お客様は、本ソフトウェアおよびその関連資料に使用されている著作権表示、商標その他の表示を除去できません。

3. リバースエンジニアリング

お客様は、自身でまたは第三者をして、本ソフトウェアのリバースエンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブルを行うことができません。

4. 使用中止

お客様が本製品を使用しなくなった場合、お客様は、本製品の一元管理データを維持・管理する目的で本ソフトウェアを使用する以外では、本ソフトウェアを一切使用できません。

5. 非保証・責任の限定

- ① 本ソフトウェアは現状有姿で提供され、日本CADは、本ソフトウェアに関して、その品質および性能に関する保証を含め、いかなる明示または黙示の保証も致しません。
- ② 日本CADは、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じたお客様の損害等について一切責任を負いません。

6. 輸出管理

お客様は、本ソフトウェアに関し、日本の外国為替及び外国貿易法ならびに関係法令（以下、「法令等」といいます）を順守し、法令等に基づく許可および日本CADの承認なく、本ソフトウェアを直接または間接的に輸出（海外への持ち出しを含む）しないものとします。

7. 日本CADの権利

お客様は、日本CADが自己の名義で本契約に基づき権利を行使できることを了承します。

8. 管轄裁判所

本ソフトウェア契約に関し紛争が生じた場合には、東京地方裁判所を管轄裁判所とするものとします。

以上

2009年9月1日

日本シー・エー・ディー株式会社

1 本ソフトウェアについて

本ソフトウェアは、不正接続検知／排除システム IntraGuardian2 を一元管理するためのソフトウェアです。

本ソフトウェアを利用することにより、複数の IntraGuardian2 を統合されたWebインタフェース（以下、管理画面といいます）から管理することができます。

1.1 本ソフトウェアの機能

1.1.1 登録済みPCの一括管理

複数の IntraGuardian2 にまたがる登録済みPCを、統合された管理画面で 参照/編集/削除 することができます。また、新たな登録を行うこともできます。

1.1.2 不正接続PCの一括参照

各 IntraGuardian2 で発見された 不正接続PC を一括して参照することができます。

1.1.3 検知履歴の一括参照

各 IntraGuardian2 上の検知履歴を永続的に保存し、一括して参照することができます。

1.1.4 表示のソート・検索とCSV出力

登録済みPC一覧や不正接続PC一覧などを、ソートして表示したり、検索条件を指定して表示することができます。

また、ソート／検索した結果をCSVファイルとして出力することができます。

1.1.5 設定の個別管理/一括管理

各 IntraGuardian2 の設定を変更したり、全ての IntraGuardian2 に同じ設定を一括して適用することができます。また、ファームウェアの一括更新もできます。

1.1.6 IntraGuardian2 の生存確認

ネットワークから切り離されたり、故障した IntraGuardian2 を発見して、自動的に管理者へメールを送信することができます。これにより管理者はいち早く IntraGuardian2 で監視されていないネットワークセグメントを把握することができ、迅速な対応を行うことができます。

1.1.7 移動PCの検出

IntraGuardian2 を設置したネットワークセグメント間でPCが移動した事を検出し、移動履歴を表示します。

1.1.8 IntraGuardian2 のグループ別管理

多数の IntraGuardian2 を管理する際、地域別や部門別などによって IntraGuardian2 のグループを定義することができ、グループ毎の管理者を設定することができます。

2 インストール

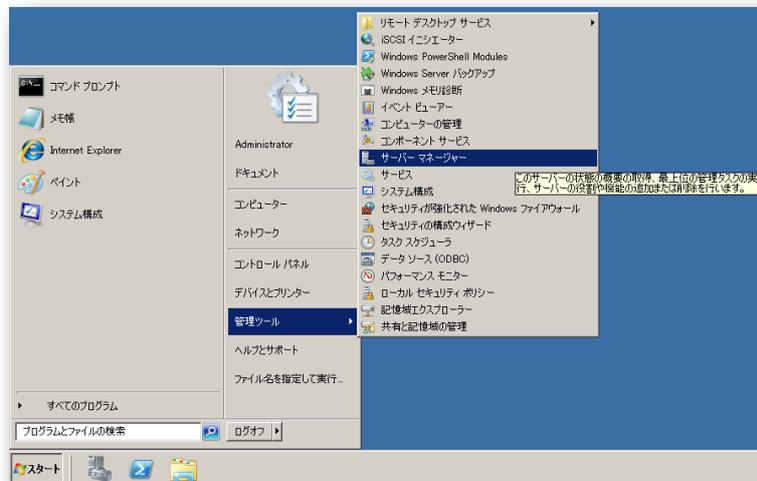
* 旧 IntraGuardian2 Manager からのアップグレードを行う場合は、【22 アップグレードとアンインストール】をお読みください。

2.1 IISのセットアップ

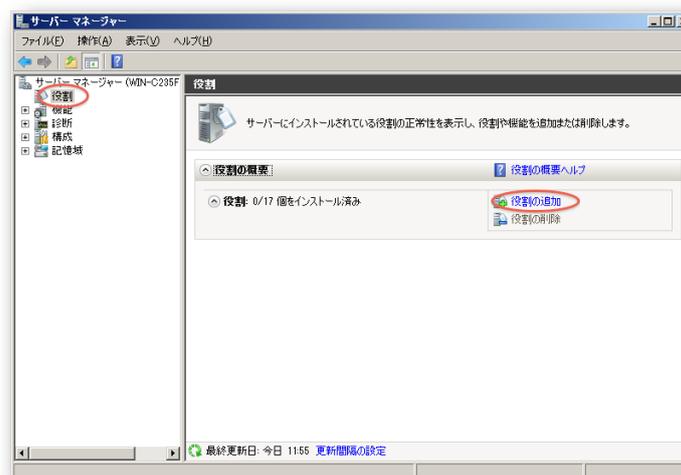
本ソフトウェアの動作には、Microsoft IIS が必要です。以下に、Microsoft Windows Server 2008R2 (Datacenter Edition)、Microsoft Windows Server 2003 (R2 Standard Edition)と、Microsoft Windows XP ProfessionalでのIISのセットアップ例を示します。

2.1.1 Windows Server 2008R2 のIISのセットアップ

まず、スタートメニューの「管理ツール」内の「サーバーマネージャー」を選択します。



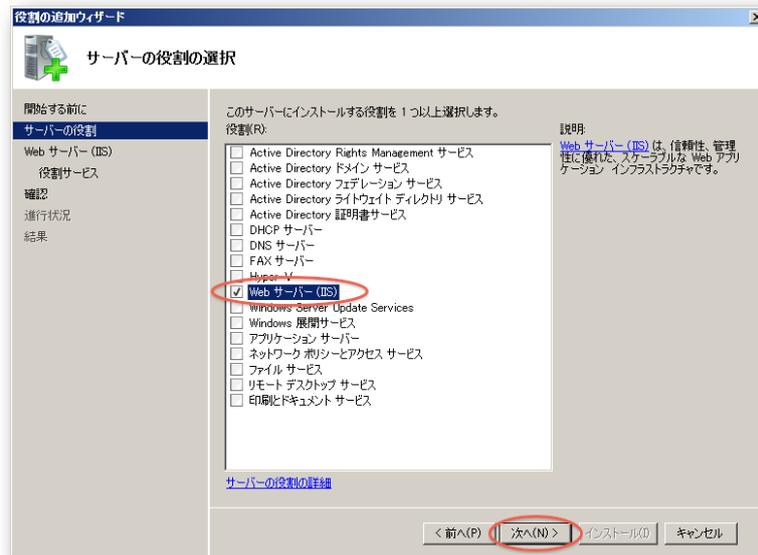
サーバーマネージャー画面が表示されますので、左側の「役割」をクリックし、右側の「役割の追加」をクリックします。



「開始する前に」という画面が表示されたら、「次へ」をクリックします。



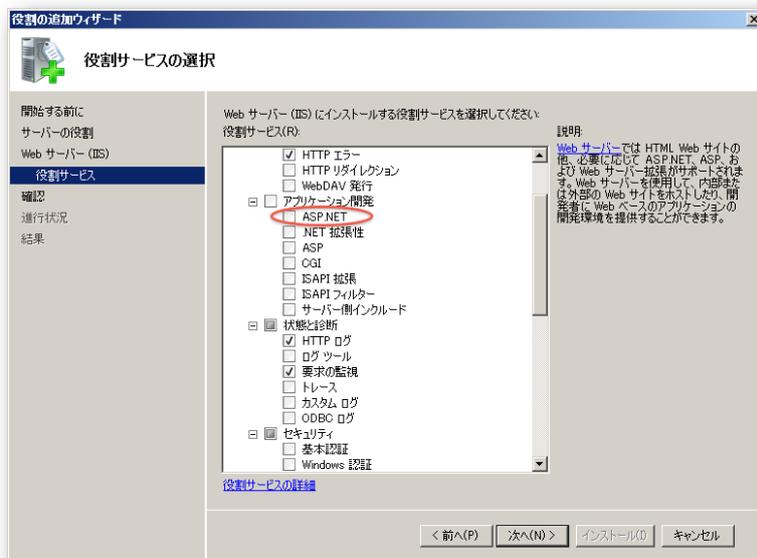
「サーバーの役割の選択」画面では、「Webサーバー (IIS)」にチェックマークをつけ、「次へ」をクリックします。



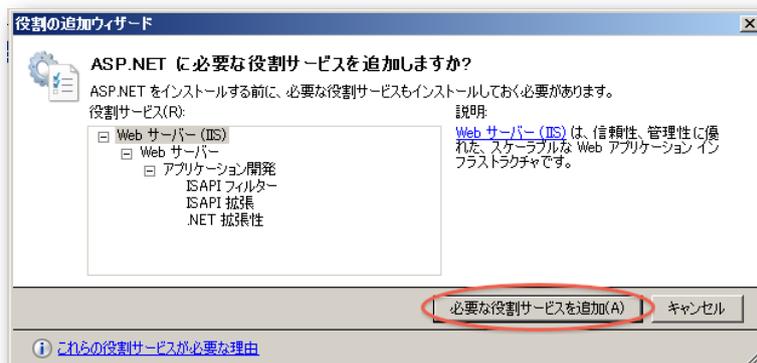
Webサーバーについての説明文が表示されますので、「次へ」をクリックします。



「役割サービスの選択」画面になりますので、「アプリケーション開発」内の「ASP.NET」にチェックマークをつけます。

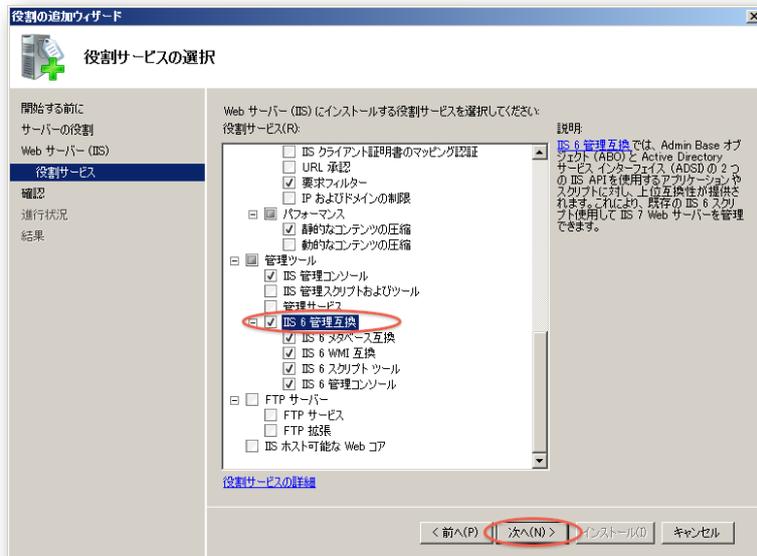


次のような画面が表示された場合には、「必要な役割サービスを追加」をクリックします。

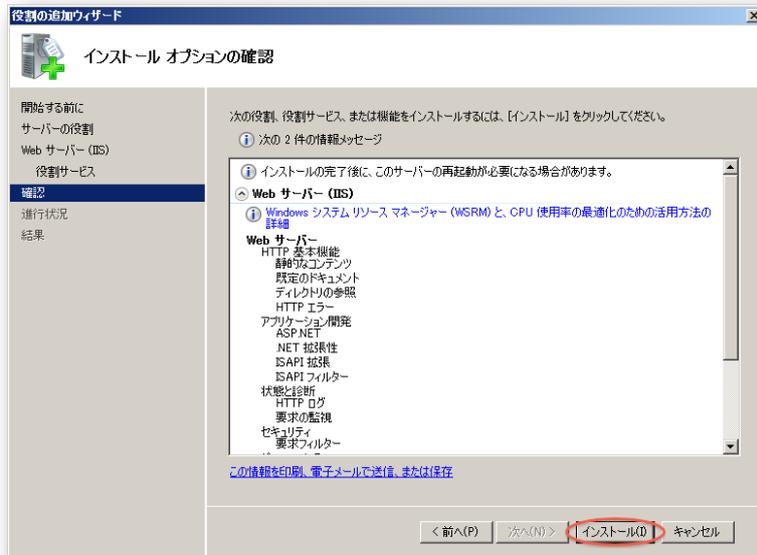


再び「役割サービスの選択」画面で、「管理ツール」内の「IIS 6 管理互換」にチェックマークをつけます。（役割サービス欄の最後に近いところにありますので、スクロールして探してください。）

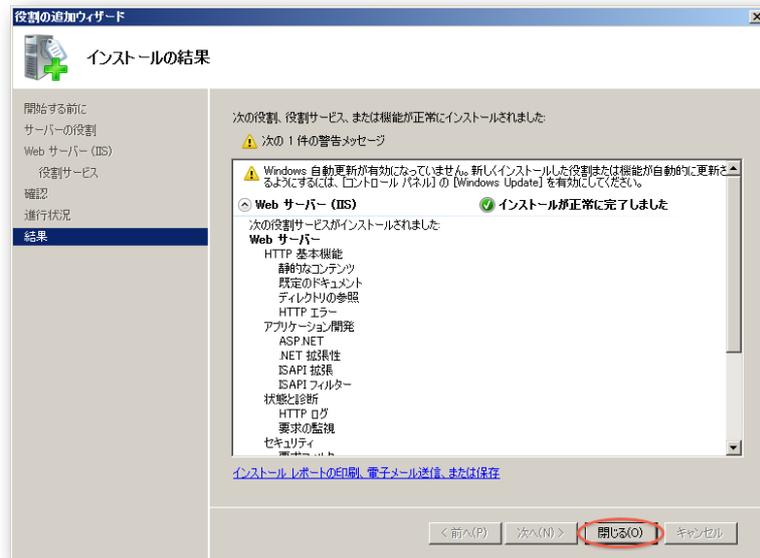
「IIS 6 メタベース互換」などの欄にも自動的にチェックマークがついたことを確認して、「次へ」をクリックします。



「インストールオプションの確認」画面が表示されますので、「ASP.NET」と「IIS 6 管理互換」が含まれている事を確認して、「インストール」をクリックします。

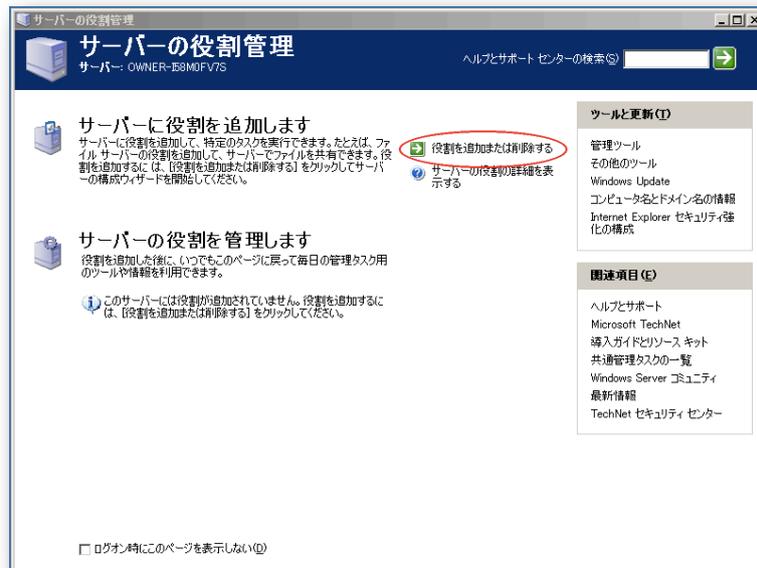


IISと必要なオプションがインストールされ、「インストールの結果」画面が表示されたら、「閉じる」をクリックして完了します。

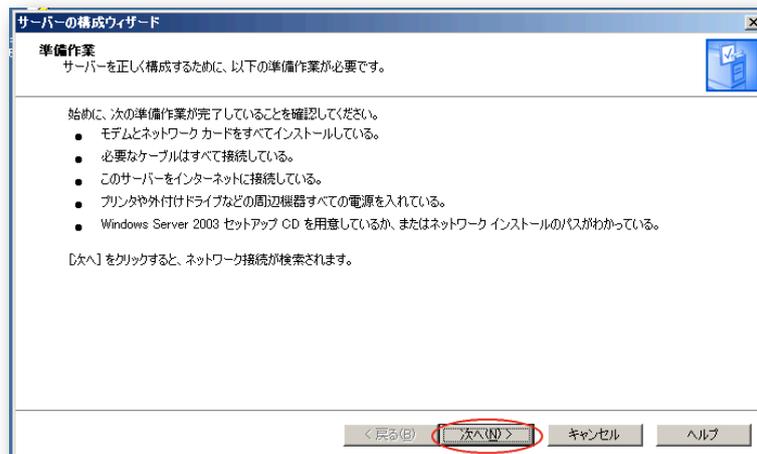


2.1.2 Windows Server 2003 のIISのセットアップ

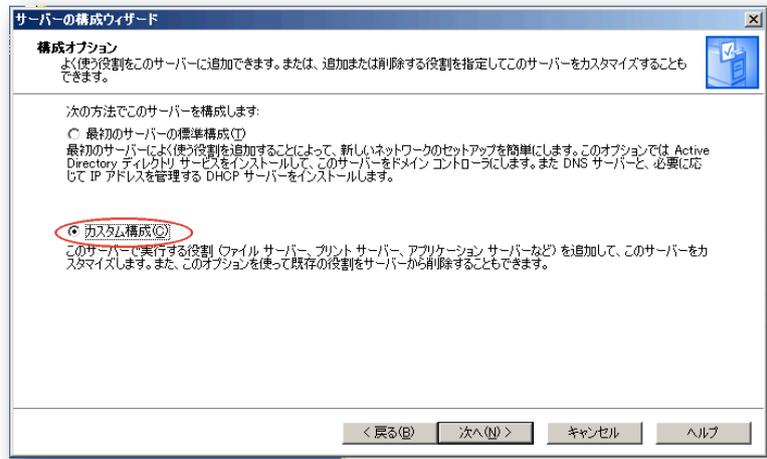
まず、スタートメニューからサーバーの役割管理画面を開き、「役割を追加または削除する」をクリックします。



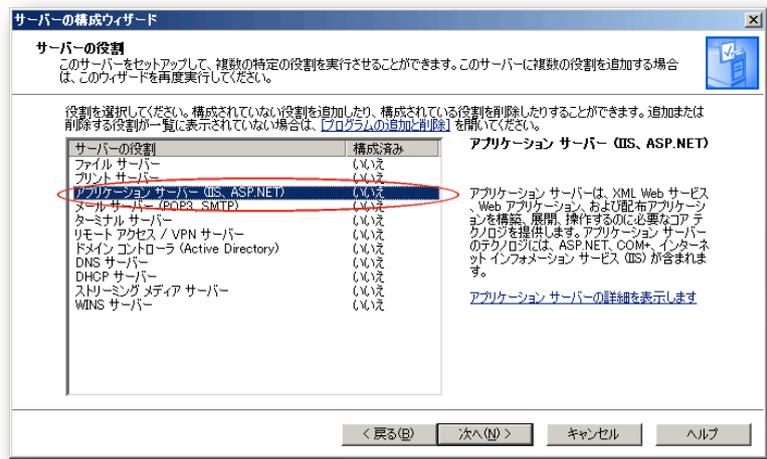
「サーバーの構成ウィザード」画面が現れるので、次に進みます。



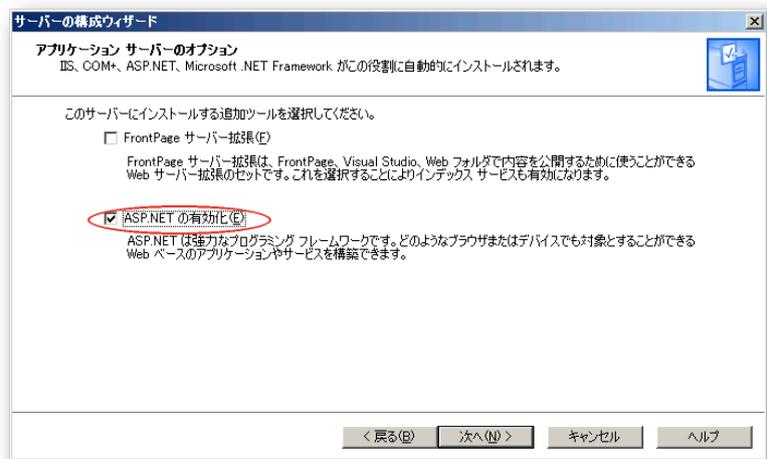
「構成オプション」画面では、「カスタム構成」を選択してください。



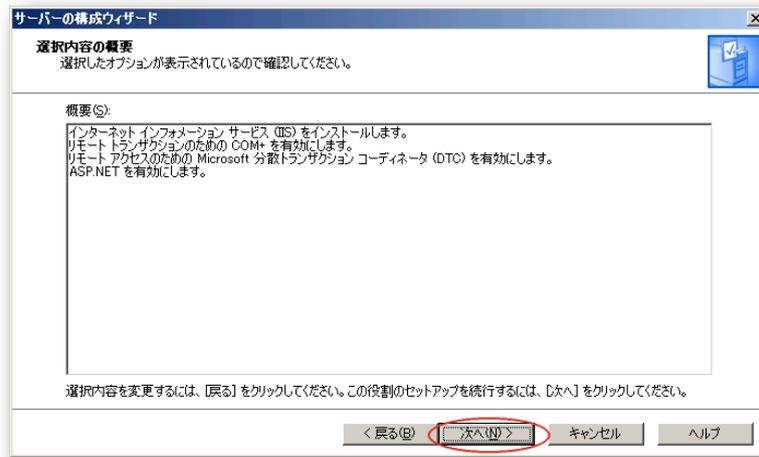
サーバーの役割として「アプリケーションサーバー (IIS、ASP.NET)」を選択し、次に進みます。



アプリケーションサーバーのオプション画面では、「ASP.NETの有効化」にチェックマークをつけます。



選択内容を確認し、次へ進みます。



インストール作業が始まりますので、指示に従ってインストールCDを入れる等の操作を行なってください。インストールが終わると、次のような画面になります。



[完了] ボタンをクリックしてアプリケーションサーバーのインストールを完了してください。

2.1.3 XP Professional のIISのセットアップ

[スタートメニュー] からコントロールパネルを起動します。



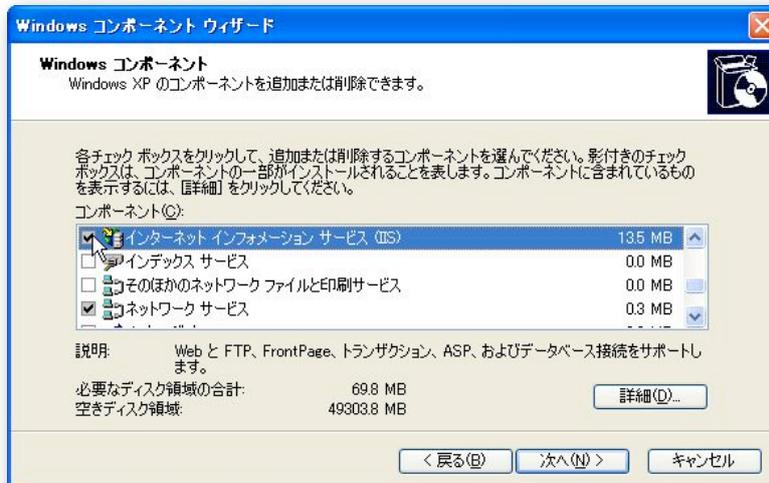
コントロールパネルのウィンドウが開いたら、[プログラムの追加と削除] を押下します。



「プログラムの追加と削除」ウィンドウが開くので、[Windowsコンポーネントの追加と削除(A)] をクリックします。



「Windows コンポーネントウィザード」ウィンドウが開くので、[インターネット インフォメーション サービス(IIS)] にチェックを入れてから、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。

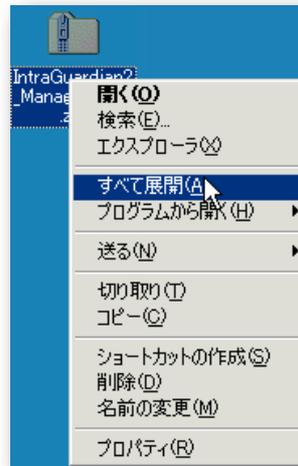


以下の完了ウィンドウが表示されたら、[完了] ボタンをクリックして、ウィザードを終了させてください。



2.2 ファイルの展開

製品サポートサイトよりダウンロードしたファイルを右クリックし、表示されたメニューから [すべて展開(A)] をクリックします。



展開ウィザード が開始するので、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。





ファイルの展開先を選択する画面が表示されますが、特に変更する必要はありません。そのまま [次へ(N)>] ボタンをクリックします。



[完了] ボタンをクリックすると、新しいウィンドウにファイル一式が表示され、展開作業は完了となります。



2.3 本ソフトウェアのセットアップ

【2.2 ファイルの展開】により得られた本ソフトウェアのインストーラを使ってセットアップを行ないます。



上記の図中のフォルダ内の setup という名前のアイコンをダブルクリックします。

2.3.1 Microsoft .NET Framework 2.0 のセットアップ

Microsoft .NET Framework 2.0 がコンピュータにインストールされていない場合は、Microsoft .NET Framework 2.0 のセットアップ画面が表示されます。以下の手順に従ってセットアップを行なってください。



使用許諾契約書を読み [同意する(A)] をクリックします。

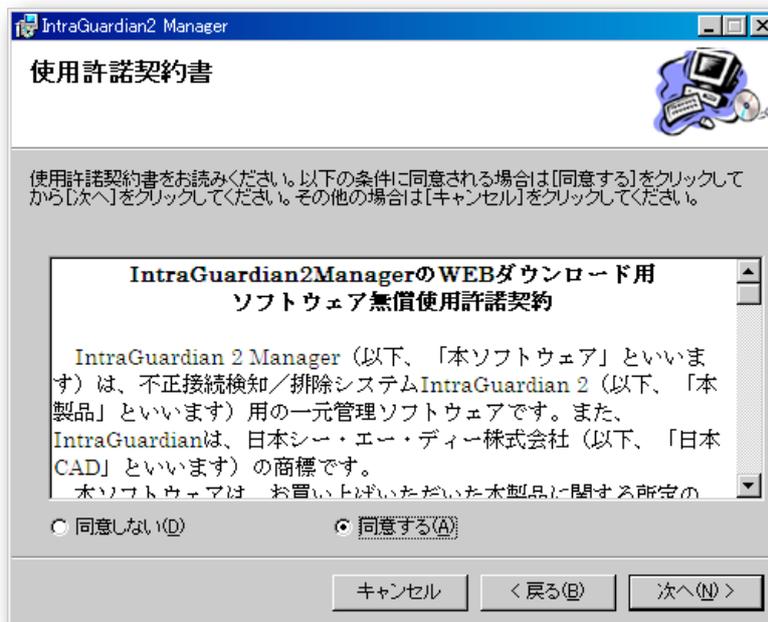
しばらくすると、本ソフトウェアのセットアップウィザードが表示されます。

2.3.2 本ソフトウェアセットアップウィザード

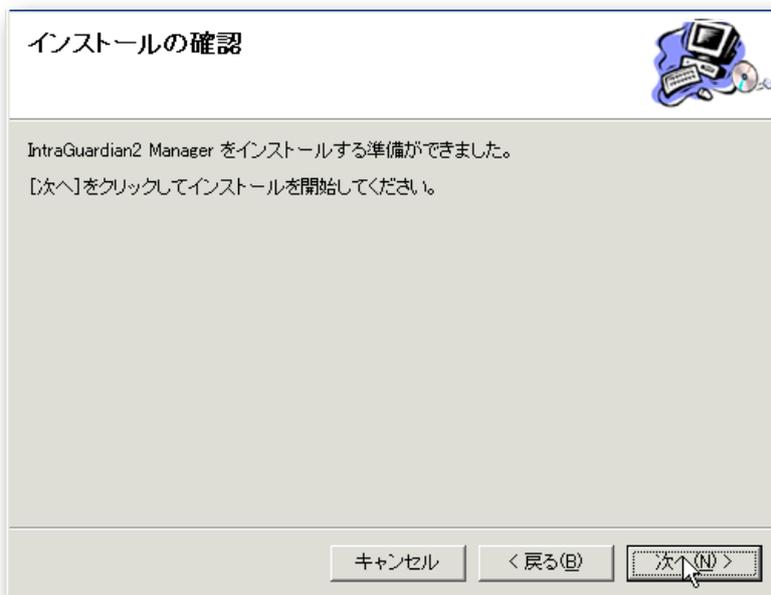
本ソフトウェアのセットアップウィザードが表示されたら、以下の手順でセットアップを完了させます。



[次へ(N)>] ボタンをクリックします。



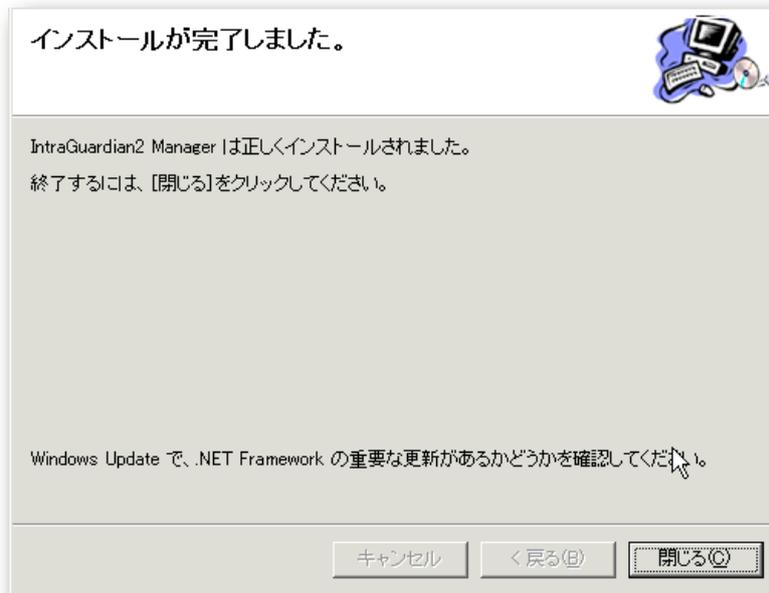
使用許諾書を読み、[同意する(A)] をクリックし、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。



[次へ(N)>] ボタンをクリックします。



インストールの途中にコマンドプロンプトが 2回表示されますが、そのままお待ちください。



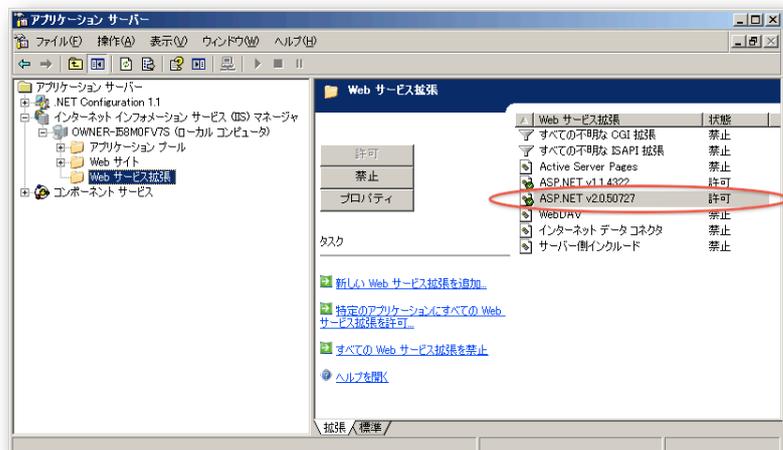
インストール完了のウィンドウが表示されたら、[閉じる(C)]ボタンをクリックし、セットアップウィザードを完了させてください。

IntraGuardian2 Managerのインストールが完了した後、一度 **Windows Update (Microsoft Update)**を用いて、**.NET Framework が最新の状態になっていることを確認**してください。

- * 「.NET Version 2.0 ~ 3.5 用 Microsoft .NET Framework 3.5 Service Pack 1 および .NET Framework 3.5 ファミリ更新プログラム」が適用されていないと、IntraGuardian2 Managerは正しく動作しません。Windows Updateは、.NET アプリケーションが一つも入っていない場合、このサービスパックを自動的に適用しないことがあります。このため、IntraGuardian2 Manager のインストールが終わった後に Windows Update で確認する必要があります。

その後、**一度Windowsを再起動**してください。

- * IISのインストールの手順によっては、ASP.Net v2.0の使用が自動で許可にならないことがあります。この場合、アプリケーションサーバーの管理画面を使って、許可状態にしてください。



3 管理画面へログイン

3.1 Webブラウザの起動

管理画面にアクセスするためにWebブラウザ(以下、ブラウザ)を起動します。本ソフトウェアをインストールしたPCのブラウザでも、本ソフトウェアとLANで繋がっている他のPCのブラウザでも構いません。

本製品の動作は、Internet Explorer 7, Internet Explorer 8, Firefox 3, Safari 5で確認をしています。

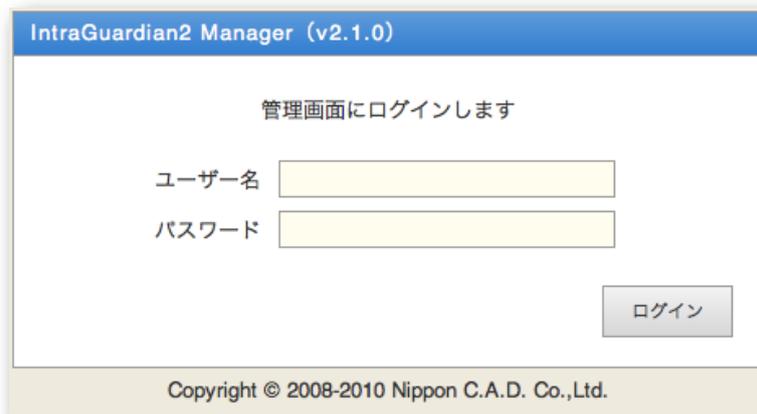
3.2 Manager PCのIPアドレスを入力

ブラウザのアドレス欄に以下のアドレスを入力して、本ソフトウェアにアクセスします。

* nnn.nnn.nnn.nnn は、本ソフトウェアをインストールしたPCの IPアドレスと読み替えてください。

アドレス	http://nnn.nnn.nnn.nnn/igm/
------	-----------------------------

「ユーザー名」と「パスワード」を入力して、[ログイン] ボタンをクリックし管理画面にログインします。



ユーザー名とパスワードは、初期状態では以下の通りに設定されています。

ユーザー名	admin
パスワード	admin

なお、以下のユーザー名とパスワードでログインすると、設定などの変更が一切できない、閲覧のみの状態の画面になります。

ユーザー名	user
パスワード	user

- * 他のPCから上記URLで Manager 管理画面にアクセスしたときに「このページは表示できません」のようなメッセージが出る場合には、Manager をインストールしたPCのファイアウォールの設定を確認し、80番ポートが受信許可されている事を確認してください。
- * Windows Server 2008R2 または Windows Server 2003 で80番ポート受信を許可する方法は、【Appendix 1 ファイアウォール設定】を参考にしてください。

4 メニュー項目

管理画面の左側には常にメニューが表示されます。



他の画面に切り替えたい場合には、このメニュー上の文字をクリックしてください。

なお、メニュー項目内容は、運用形態やログインしたユーザーの権限によって変化します。上記のメニューは、後述するグループ管理機構をオフにしたとき（工場出荷時状態）に、システム管理者（ユーザー名“admin”）がログインした時のものです。

システム管理者以外でログインした場合には、[ファームウェア更新] [Manager設定] [外部システム連携] [ユーザー管理] [操作履歴] は表示されません。

5 IntraGuardian2 の登録

管理する IntraGuardian2 を登録します。

メニューから [IntraGuardian2一覧] をクリックすると、「IntraGuardian2一覧」の画面が表示されます。これから管理する IntraGuardian2 を登録するために、[新規登録] ボタンをクリックしてください。



ボタンクリック後「IntraGuardian2登録」画面が表示されます。必要項目を入力し、[確定] ボタンをクリックしてください。

名称	各 IntraGuardian2 を識別するための名前 '(シングルクォート)と,(カンマ)以外の任意の文字を使用できます。
IPアドレス	対象 IntraGuardian2 の IPアドレス
NAT環境下に設置	対象 IntraGuardian2 がNAT内に設置されている場合には チェックマークをつけます。 NAT環境下の設置については、【12.4 NAT内の IntraGuardian2】をお読みください。

- * システム管理者("admin")でログインした場合だけ、IntraGuardian2 の登録を行うことができます。
- * また、後述するグループ管理機構を有効にした場合には、IntraGuardian2 グループとして「全 IntraGuardian2」を選択したときのみ IntraGuardian2 の登録ができます。

6 IntraGuardian2一覧

IntraGuardian2 が登録されると、「IntraGuardian2一覧」画面に「名称」及び「IPアドレス」が赤文字で表示されます。



しばらく時間をおいてから再度「IntraGuardian2一覧」画面を開くか、何らかの設定を行うと、IntraGuardian2 との通信が成功し、赤文字から緑文字に変化します。



6.1 IntraGuardian2一覧の文字色

赤文字	IntraGuardian2 を登録したばかりで一度も通信を行っていない状態。または、IntraGuardian2 の生存確認に失敗した状態。
緑文字	IntraGuardian2 が正常に動作している状態。
桃色文字	IntraGuardian2 がファームウェアアップデートを行なっている状態。

- * 登録した IntraGuardian2 が「IntraGuardian2 Managerを使用する」設定になっていない場合、通信ができないため、いつまでも赤文字のままになります。「IntraGuardian2 Managerを使用する」設定の変更は、IntraGuardian2 本体のユーザーインターフェース画面で変更します。詳しくは IntraGuardian2 のスタートアップガイドをご覧ください。

6.2 各欄の説明

名称	各 IntraGuardian2 を識別するための名前
IPアドレス	対象 IntraGuardian2 の IPアドレス
型式	対象 IntraGuardian2 の製品型式名称 一度も通信をしていない状態では、標準の IntraGuardian2 の型式である "IG2-01PL" が表示されます。
状態	IntraGuardian2 の状態 NG : 異常動作、もしくは通信不可能 Running : 正常動作 Updating: ファームウェアアップデート中
動作モード	IntraGuardian2 の動作モード 検知 / 排除 / 保留+排除 (IntraGuardian2 本体のユーザーインターフェースで「保留」と記述されているモードは、Manager画面では「保留+排除」と表記されています。)
DB保存場所	登録済みPC情報の保存場所 IntraGuardian2 本体 / IntraGuardian2 Manager
操作	[設定] ボタン : 個別の IntraGuardian2 の設定を変更する画面に移ります。 [編集] ボタン : IntraGuardian2 の名称や IPアドレスを変更する画面に移ります。 [管理] ボタン : IntraGuardian2 EXの管理ポートのログイン画面に移ります。

* 操作欄の [管理] ボタンは、IntraGuardian2 EXの代表IntraGuardian2にのみ表示されます。

6.3 検索とソート

「名称が」などの検索条件を選択・入力して [検索] ボタンをクリックすると、その条件に合致したIntraGuardian2 だけが表示されます。

表のタイトル欄の「名称」「IPアドレス」「型式」「状態」「動作モード」「DB保存場所」の各文字をクリックすると、その項目でソートして表示をします。現在ソート対象となっている項目名には「▲」（降順）「▼」（昇順）の記号が付きます。既にソート対象となっている項目名をクリックすると、昇順と降順を切り替えます。

また、表の末尾右側にある「表示行数変更」のプルダウンを選択すると、画面に表示する行数を制限することができます。

6.4 IntraGuardian2 の登録削除

IntraGuardian2 の名称の左側のチェックボックスをクリックしてマークをつけ、表の左下にある [削除] ボタンをクリックすると、IntraGuardian2 の登録を削除することができます。



- * 一度登録を削除すると、同じ名称・IPアドレスで再び IntraGuardian2 を登録し直しても、内部的には別の IntraGuardian2 であると認識されます。すなわち、登録済みPC情報をManager側に保存している場合には登録PC情報は失われますし、検知履歴やPC移動履歴等の過去の情報は継続して扱われません。
- * IntraGuardian2 の登録削除の際には、Manager内の登録情報が変更されるだけです。IntraGuardian2 本体は（Manager非管理の状態）そのままお使いいただけます。

7 全登録済みPC一覧

メニューから [全登録済みPC一覧] をクリックすると、全ての IntraGuardian2 に登録されているPCの一覧を参照することができます。また、登録済みPCの編集や削除もできます。

選択	IG2	MACアドレス ベンダー	名称	IPアドレス (登録アドレス)	コンピュータ名 ワークグループ	確認日時▲ (登録日)	有効期限	操作
<input type="checkbox"/>	220	00:01:C7:D5:D4:0B <Cisco Systems>	Default Gateway	192.168.220.254 (192.168.220.254)		07/05 20:15:38 (2012/06/18)		編集 WOL
<input type="checkbox"/>	220	00:11:0C:0F:00:22 <Atmark Techno>		192.168.220.252 (192.168.220.252)		07/05 20:15:38 (2012/06/18)		編集 WOL
<input type="checkbox"/>	220	34:15:9E:11:09:3E <Apple>		192.168.220.201 (192.168.220.201)		06/28 15:22:18 (2012/06/18)		編集 WOL

原則として、PCの登録は IntraGuardian2 毎に行なわれているという点に注意してください。同じPCが2台の IntraGuardian2 に登録されている場合、登録件数は2件としてカウントされます。

初期状態では複数の IntraGuardian2 に登録されているPCは1行にまとめて表示され、「IG2」という欄には、当該PCが登録されている IntraGuardian2 の名前が表示されます。当該PCが全ての IntraGuardian2 に登録されている場合には、「全て」と表示されます。

「MACアドレスが同じ登録をまとめて表示する」のチェックボックスを外すと、複数の IntraGuardian2 に登録されているPCを1行にまとめて表示するのをやめ、それぞれ別の行として表示するようになります。

「IntraGuardian2 名称が」などの検索条件を選択・入力して「検索」ボタンをクリックすると、その条件に合致した登録PCだけが表示されます。

表のタイトル欄の「IG2」「MACアドレス」「名称」「IPアドレス」「コンピュータ名」「ワークグループ」「確認日時」「登録日時」「有効期限」の各文字をクリックすると、その項目でソートして表示をします。現在ソート対象となっている項目名には「▲」（降順）「▼」（昇順）の記号が付きます。既にソート対象となっている項目名をクリックすると、昇順と降順を切り替えます。

また、表の末尾右側にある「表示行数変更」のプルダウンを選択すると、画面に表示する行数を制限することができます。

* 「IPアドレス」「コンピュータ名」「ワークグループ」の各欄は、IntraGuardian2 が検知した最新の情報を表示します。このため、当該PCが登録後に IntraGuardian2 で監視しているネットワーク内で一度も使われていない場合や、過去90日以上使われていない場合、または使われたとしても情報を取得することができない場合には、これらの欄は空欄（または「-----」）になります。

- * 後述する Manager設定において、端末登録モードを「一括登録」にした際には、PCの登録情報は全ての IntraGuardian2 で同一となり、登録件数も1件としてカウントされます。このため、「MACアドレスが同じ登録をまとめて表示する」のチェックボックスは表示されません。
- * また、上記画面の「IG2」の欄は、PC登録時にそのPCを検知していた IntraGuardian2 の名称を表示します。すなわち、登録後にPCを別の場所に移動して使っている場合には、IG2欄に表示されるのは「現在そのPCを検知しているIntraGuardian2 名」ではないということに注意してください。
- * 端末登録モードについては、【15.5 Manager設定 その他の設定】をご覧ください。

[CSV出力] ボタンをクリックすると、表示中の情報をCSV形式のファイルとしてブラウザにダウンロードすることができます。この際、「MACアドレスが同じ情報をまとめて表示する」と、表示行数制限は無視されます。

7.1 PCの新規登録

全登録済みPC一覧画面で [新規登録] ボタンをクリックすると、PC登録画面が表示されます。各項目に入力して [確定] ボタンをクリックすることでPCを新規登録することができます。

名称	各 PC を識別するための名前 ,(カンマ)以外の任意の文字で、32バイト以内
MACアドレス	対象とする PC のMACアドレス
IPアドレス	対象とする PC のIPアドレス
有効期限	登録の有効期限 YYYY/MM/DD HH:MM:SS の形式の文字列で指定します。 [カレンダー表示] ボタンを押すと、右側にカレンダーが表示され、その日付をクリックすることにより本欄に入力を行うことができるようになります。
PC移動監視の対象としない	登録PCが別の場所で使われた場合にメール通知する機能を用いる場合、このPCをその例外とすることを指示します。 * 詳しくは【10 PC移動履歴】をご覧ください。
対象IntraGuardian2	登録先の IntraGuardian2 IntraGuardian2 の名称がリストアップされるので、左側のチェックボックスにチェックを入れて選択します

- * 名称は、内部ではUTF-8コードで管理されています。このため、英数字のみを用いるとおおむね32文字まで、日本語のみを用いるとおおむね10文字まで登録できます。
- * IPアドレス欄は、登録時と異なるIPアドレスのPCを検出する機能を用いるときに参照されます。この機能を用いない場合（初期状態）は、IPアドレス欄は入力しても空欄でも構いません。
- * 有効期限欄を空欄にすると、有効期限無しとして扱われます。

- * 後述する Manager設定において、端末登録モードを「一括登録」にした際には、PCの登録情報は全ての IntraGuardian2 で同一となるため、「対象IntraGuardian2」の欄は表示されません。

なお、PCの登録は、後述する全不正PC一覧画面からこの画面を呼び出して行うこともできます。全不正PC一覧画面からPC登録画面を呼び出すと、MACアドレスやIPアドレス欄などがはじめから入力された状態になっていますので、登録が簡単です。

7.2 登録済みPCの編集

全登録済みPC一覧画面で、登録されている PC の操作欄にある [編集] ボタンをクリックすると、登録情報の編集を行うことができます。その際、既にチェックが入っている「対象IntraGuardian2」からチェックを外した場合は、その IntraGuardian2 からは削除されます。また、チェックが入っていない「対象IntraGuardian2」にチェックを入れた場合は、その IntraGuardian2 に新たな PC として、新規登録されます。

<input type="checkbox"/>	札幌支社 IT事業部	00:11:0C:00:00:00 <Atmark Techno>	業務サーバー	192.168.0.50 (192.168.0.50)	DB-SERVER WORKGROUP	12/08 11:27:00 (2009/11/18)	編集
--------------------------	---------------	--------------------------------------	--------	--------------------------------	------------------------	--------------------------------	----

PC情報編集

PC情報の編集を行ないます。

下の各項目に入力後、確定ボタンを押してください。

名称	業務サーバー
MACアドレス	00:11:0C:00:00:00
IPアドレス	192.168.0.50
有効期限	<input type="button" value="カレンダー表示"/> <input type="button" value="期限無し"/>

PC移動監視の対象としない

対象 IntraGuardian2

札幌支社 IT事業部 総務

チェックマークが付いていない IntraGuardian2 からは登録を削除する

チェックマークが付いていない IntraGuardian2 の登録内容は変更しない

この編集ボタンから呼び出される画面にはあらかじめ各情報が入っています。変更する必要がある部分だけを書き変えてください。

「チェックマークが付いていない IntraGuardian2 からは登録を削除する」または「チェックマークが付いていない IntraGuardian2 の登録内容は変更しない」のいずれかを選択して、[確定] ボタンを押してください。

7.3 登録済みPCの削除

全登録済みPC一覧画面で、「選択」欄にチェックマークをつけてから表の左下の [削除] ボタンをクリックすると、選択したPCの登録を削除することができます。



[全件削除] ボタンを押すと、現在表示しているPCの登録を全部削除することができます。検索条件が指定されていたり、表示行数が制限されている場合には、表示されていないものに関しては対象外になるという点に注意してください。

なお、[削除] [全件削除] とともに、削除を実施する前に確認のダイアログが出ます。

7.4 WOLマジックパケットの送信

全登録済みPC一覧画面で、登録されている PC の操作欄にある [WOL] ボタンをクリックすると、その機器宛のWOLマジックパケットを送信致します。PC が登録されている全てのセグメントで送信が行われます。

8 全不正接続PC一覧

メニューから [全不正接続PC一覧] をクリックすると、全ての IntraGuardian2 が検知/排除中の不正接続PCの一覧が表示されます。また、この画面からもPCの個別登録や一括登録ができます。

保留中になっているPCについては、状態欄に残りの保留時間が表示されますが、この時間は本画面を再表示するまで更新されません。

IG2	MACアドレス ベンダー	IPアドレス	コンピュータ名 ワークグループ	検知日時	確認日時▲	状態	操作
IT事業部	00:14:5E:00:00:00 <IBM>	192.168.4.55		10/27 01:00:00	10/27 02:30:28	排除中	登録 保留
IT事業部	00:0B:97:00:00:00 <Mitsubishi Electric>	192.168.4.168	YM0001 WORKGROUP	10/26 10:08:05	10/27 02:30:19	保留中 残り2時間	登録 保留
IT事業部	00:14:5C:00:00:00 <Intertec>	192.168.4.59	KK0226 WORKGROUP	10/26 23:51:18	10/27 02:30:02	保留中 残り20時間	登録済 保留

「IntraGuardian2 名称が」などの検索条件を選択・入力して「検索」ボタンをクリックすると、その条件に合致したPCだけが表示されます。

表のタイトル欄の「IG2」「MACアドレス」「IPアドレス」「コンピュータ名」「ワークグループ」「検知日時」「確認日時」「状態」の各文字をクリックすると、その項目でソートして表示をします。現在ソート対象となっている項目名には「▲」（降順）「▼」（昇順）の記号が付きます。既にソート対象となっている項目名をクリックすると、昇順と降順を切り替えます。

また、表の末尾右側にある「表示行数変更」のプルダウンを選択すると、画面に表示する行数を制限することができます。

[CSV出力] ボタンをクリックすると、表示中の情報をCSV形式のファイルとしてブラウザにダウンロードすることができます。この際、表示行数制限は無視されます。

8.1 PCの登録

登録したい PC の右側に表示されている [登録] ボタンをクリックすると「全登録済みPC一覧」の登録画面と同じ画面が表示されます。コンピュータ名を取得できた場合は、あらかじめ名称として自動的に入力済みの状態となります。

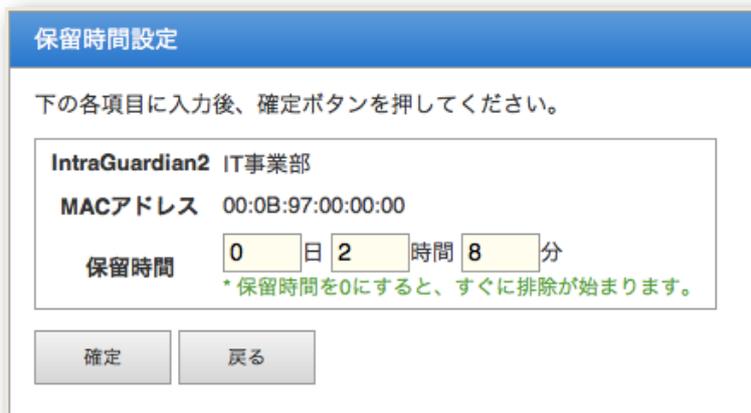
原則として、登録済みのPCが本画面に現れることはありません。ただし、次の場合には登録済PCであっても不正PCとして扱われ、本画面に表示されます。

- ・ IntraGuardian2 の動作設定で「登録PCのIPアドレス監視機能を有効にする」が設定されており、当該PCが登録時と異なるIPアドレスで使われている。
- ・ 当該PCの登録有効期限が切れている

これらの場合、該当するPCの行の [登録] ボタンは表示されず、代わりに「登録済」と表示されます。

8.2 保留時間設定

「保留+排除」モードで運用している IntraGuardian2 が検知した PC の場合、[保留] ボタンが表示されます。このボタンをクリックすると、保留中のPCの場合には残り保留時間の変更が、排除中のPCの場合には排除を停止して一定時間保留状態にすることができます。



保留時間設定

下の各項目に入力後、確定ボタンを押してください。

IntraGuardian2 IT事業部

MACアドレス 00:0B:97:00:00:00

保留時間 0 日 2 時間 8 分

* 保留時間を0にすると、すぐに排除が始まります。

確定 戻る

8.3 PCの一括登録

画面に表示されている PC を一括して登録したい場合は [一括登録] ボタンをクリックしてください。コンピュータ名を取得出来た場合は、そのコンピュータ名が名称として自動的に入力されます。

- * ハードウェア及び通信設備の状況によっては、非常に多数のPCの一括登録が出来ない場合がございます。1000台を超える一括登録をする際には、サポートにご相談ください。

9 全検知履歴

メニューから [全検知履歴] をクリックすると、全ての IntraGuardian2 が検知した不正接続検知の履歴を参照することができます。また、この画面からもPCの個別登録や一括登録ができます。

検知履歴は定期的に IntraGuardian2 からManagerのハードディスクにコピーされ、保存されます。過去の大量の検知履歴によって表示などの操作が遅くなることを避けるため、本画面で表示対象とする履歴の期間を1日～365日の中から選択できるようになっています。

また、同じPCが何度も検知された場合には、検知日時や確認日時だけが複数行になって表示されます。（「MACアドレスが同じ記録をまとめて表示する」のチェックボックスをはずすと、検知毎に別の行として表示させる事ができます。）

IG2	MACアドレス ペンダー→ <<CIMSYS>	IPアドレス	コンピュータ名 ワークグループ	検知日時	確認日時▲	操作
総務	00:11:22:33:00:02 <<CIMSYS>	192.168.0.2	HOST00002 WORKGROUP	03/09 15:09:29	03/09 15:09:29	登録
総務...他	00:11:22:33:00:06 <<CIMSYS>	192.168.0.6	HOST00006 WORKGROUP	03/09 14:12:25 03/09 12:52:55 03/09 12:34:51 ...他1件	03/09 14:12:25 03/09 12:52:55 03/09 12:34:51 ...他1件	登録
総務...他	00:11:22:33:00:05 <<CIMSYS>	192.168.0.5	HOST00005 WORKGROUP	03/09 13:24:21 03/09 12:06:01	03/09 13:24:21 03/09 12:06:01	登録
IT事業部	00:11:22:33:00:03 <<CIMSYS>	192.168.0.3	HOST00003 WORKGROUP	03/09 11:49:22	03/09 11:49:22	登録

「IntraGuardian2 名称が」などの検索条件を選択・入力して「検索」ボタンをクリックすると、その条件に合致した履歴だけが表示されます。

表のタイトル欄の「IG2」「MACアドレス」「IPアドレス」「コンピュータ名」「ワークグループ」「検知日時」「確認日時」の各文字をクリックすると、その項目でソートして表示をします。現在ソート対象となっている項目名には「▲」（降順）「▼」（昇順）の記号が付きます。既にソート対象となっている項目名をクリックすると、昇順と降順を切り替えます。

また、表の末尾右側にある「表示行数変更」のプルダウンを選択すると、画面に表示する行数を制限することができます。

[CSV出力] ボタンをクリックすると、表示中の情報をCSV形式のファイルとしてブラウザにダウンロードすることができます。この際、表示行数制限は無視されます。

9.1 PCの登録

登録したいPCの右側に表示されている [登録] ボタンをクリックすると「全登録済みPC一覧」の登録画面と同じ画面が表示されます。コンピュータ名を取得できた場合は、あらかじめ名称として自動的に入力済みの状態となります。

9.2 PCの一括登録

画面に表示されている PC を一括して登録したい場合は [一括登録] ボタンをクリックしてください。コンピュータ名を取得出来た場合は、そのコンピュータ名が名称として自動的に入力されます。

* ハードウェア及び通信設備の状況によっては、非常に多数のPCの一括登録が出来ない場合がございます。1000台を超える一括登録をする際には、サポートにご相談ください。

9.3 全検知履歴の削除

表の下に表示されている [履歴削除] ボタンをクリックすると、次の画面が表示されます。

ここで、条件を指定して [削除する] ボタンをクリックすると、条件に合致する履歴が削除されます。

なお、本日の履歴は削除することができません。(確認日時の条件欄に0日を入力することはできません。)

10 PC移動履歴

メニューから [PC移動履歴] をクリックすると、セグメント間で持ち運ばれたPCがわかります。

登録済みのPCのMACアドレスが、ある IntraGuardian2 が監視しているセグメント内で見つかった後に、他の IntraGuardian2 が管理しているセグメント内で見つかった場合に、そのPCが移動したと認識されます。（そのため、本機能は IntraGuardian2 本体の機能ではなく、IntraGuardian2 Manager 固有の機能となっています。）

- * この機能は、Manager設定の「PC移動確認間隔」を 0 以外にしたときのみ有効です。インストール直後の状態では、この設定は 0 で、無効になっています。

移動元	移動先	MACアドレス	名称	IPアドレス	コンピュータ名 ワークグループ	確認日時▲
総務	IT事業部	00:1B:63:00:00:00 <Apple Computer>	営業次郎ノート	192.168.10.131	JIRO_NOTE WORKGROUP	10/19 14:10:01
総務...他		00:30:13:00:00:00 <NEC>	山田太郎作業用	192.168.10.220	YAMADA-01 WORKGROUP	10/19 11:05:35 10/18 08:12:11
総務		00:17:F2:00:00:00 <Apple Computer>	田中一郎	192.168.13.4	RTANAKA KOUGA	10/18 17:04:54

移動履歴は Manager 内のハードディスクに永続的に保存されます。過去の大量の移動履歴によって表示などの操作が遅くなることを避けるため、本画面で表示対象とする履歴の期間を1日～365日の中から選択できるようになっています。

同じPCが何度も移動検知された場合には、確認日時だけが複数行になって表示されます。（「MACアドレスが同じ記録をまとめて表示する」のチェックボックスをはずすと、検知毎に別の行として表示させる事ができます。）

「IntraGuardian2 名称が」などの検索条件を選択・入力して「検索」ボタンをクリックすると、その条件に合致した履歴だけが表示されます。

表のタイトル欄の「移動元」「移動先」「MACアドレス」「名称」「IPアドレス」「コンピュータ名」「ワークグループ」「確認日時」の各文字をクリックすると、その項目でソートして表示をします。現在ソート対象となっている項目名には「▲」（降順）「▼」（昇順）の記号が付きます。既にソート対象となっている項目名をクリックすると、昇順と降順を切り替えます。

また、表の末尾右側にある「表示行数変更」のプルダウンを選択すると、画面に表示する行数を制限することができます。

[CSV出力] ボタンをクリックすると、表示中の情報をCSV形式のファイルとしてブラウザにダウンロードすることができます。この際、「MACアドレスが同じ記録をまとめて表示する」と表示行数制限は無視されます。

10.1 特定のPCを移動検知対象外にする

ネットワーク構成の都合などにより、特定のPCが複数の IntraGuardian2 に検知されるということがあります。（頻繁にノートPCを持ち運んでいる場合や、VLANを用いた環境などで発生する事があります。）この場合、その特定PCだけをPC移動検知の対象から外す事により、不用なメール通知を無くすことができます。

特定PCをPC移動検知対象から外すには、「全登録済みPC一覧」画面から当該PCの [編集] ボタンをクリックします。すると、PC情報編集画面が表示されますので、その中の [PC移動監視の対象としない] にチェックマークをつけて、[確定] ボタンを押してください。

PC情報編集

PC情報の編集を行ないます。
下の各項目に入力後、確定ボタンを押してください。

名称

MACアドレス

IPアドレス

有効期限

PC移動監視の対象としない

対象 IntraGuardian2 全選択 選択解除

札幌支社 IT事業部 総務 札幌A 札幌B 函館

チェックマークが付いていない IntraGuardian2 からは登録を削除する
 チェックマークが付いていない IntraGuardian2 の登録内容は変更しない

10.2 PC移動履歴の削除

表の下に表示されている [履歴削除] ボタンをクリックすると、次の画面が表示されます。

PC移動履歴削除

以下の条件に合致するPC移動履歴を削除します。（本日検出された履歴は削除できません。）

確認日時が 日前かそれより古い

かつ が

*条件の文字列が空欄の場合は、全ての履歴と合致します。

ここで、条件を指定して [削除する] ボタンをクリックすると、条件に合致する履歴が削除されます。

なお、本日の履歴は削除することができません。（確認日時の条件欄に0日を入力することはできません。）

IntraGuardian2 名称を検索条件にした場合は、移動元または移動先のいずれかで条件に合致すれば、削除されます。

11 全例外IPアドレス一覧

本製品は、あらかじめ登録してあるIPアドレスの機器については、不正端末として処理しないようにする機能を持っています。冗長化などの都合でしばしば機器本体が入れ替わる（あるIPアドレスに対応するMACアドレスが時々変わる）サーバなどがある場合に利用します。

- * 本機能を用いる場合には、あらかじめ「IntraGuardian2一覧」の「設定」画面にある「動作設定」で、「例外IPアドレスを有効にする」を選択しておいて下さい。
- * PCを含む一般的なネットワーク機器では、IPアドレスの詐称はごく簡単にできてしまうため、本機能を有効にすると不正端末を見逃してしまう可能性が生まれてしまいます。
冗長化構成によりあらかじめ代替機となる機器のMACアドレスが分かっている場合、それを登録済みPC一覧に登録しておき、本機能は無効にしておくという運用をお勧めします。
ルーターなどの故障修理時に、どのようなMACアドレスの機器が代替機になるかわからないという場合にのみ、本機能をお使いください。

例外IPアドレスは、IntraGuardian2 毎に登録を持ちますが、本画面ではそれを一覧することができます。

選択	IG2	IPアドレス
<input type="checkbox"/>	技術2課	192.168.58.1
<input type="checkbox"/>	技術2課	192.168.58.2
<input type="checkbox"/>	IT事業部	192.168.222.100

11.1 例外IPアドレスの登録

全例外IPアドレス一覧画面の左上にある [新規登録] ボタンにより、例外IPアドレスを追加登録することができます。

IPアドレス	対象とする PC のIPアドレス
対象IntraGuardian2	登録先の IntraGuardian2 IntraGuardian2 の名称がリストアップされるので、左側の チェックボックスにチェックを入れて選択します

* 例外IPアドレスは、IntraGuardian2 1台に対して10件まで登録できます。

11.2 例外IPアドレスの削除

全例外IPアドレス一覧画面で、「選択」欄にチェックマークをつけてから表の左下の [削除] ボタンをクリックすると、選択したIPアドレスの登録を削除することができます。



[全件削除] ボタンを押すと、現在表示している登録を全部削除することができます。検索条件が指定されていたり、表示行数が制限されている場合には、表示されていないものに関しては対象外になるという点に注意してください。

なお、[削除] [全件削除] とともに、削除を実施する前に確認のダイアログが出ます。

12 IntraGuardian2 の設定

本ソフトウェアから、IntraGuardian2 の設定を参照/変更することができます。

まず、メニューから [IntraGuardian2一覧] をクリックして IntraGuardian2一覧画面を表示します。

設定を参照/変更したい IntraGuardian2 の欄にある [設定] ボタンをクリックすると、IntraGuardian2 の設定画面が表示されます。

The screenshot shows the 'IntraGuardian2 一覧 [5件]' screen. At the top, there is a search bar with the text '新規登録 : [名称] が [] を含む [検索] [クリア]'. Below this is a table with the following columns: 選択, 名称, IPアドレス, 型式, 状態, 動作モード, DB保存場所, and 操作. The table contains five rows of data. The '操作' column for each row contains buttons for '設定' (highlighted with a red circle), '編集', and '管理'. At the bottom right of the table, there is a '表示行数変更' dropdown menu set to '200'. A '削除' button is located at the bottom left of the screen.

選択	名称	IPアドレス	型式	状態	動作モード	DB保存場所	操作
<input type="checkbox"/>	IT事業部	192.168.100.1	IG2-01PL	Running	検知のみ	IG2 本体	[設定] [編集]
<input type="checkbox"/>	営業1課	172.16.22.57	IG2EX_16VL*	Running	検知のみ	IG2 本体	[設定] [編集] [管理]
<input type="checkbox"/>	技術1課	172.16.2.1	IG2EX_16VL	Running	検知のみ	IG2 本体	[設定] [編集]
<input type="checkbox"/>	技術2課	192.168.8.60	IG2-01PL	Running	検知のみ	IG2 本体	[設定] [編集]
<input type="checkbox"/>	総務	172.16.1.1	IG2EX_16VL	Running	検知のみ	IG2 本体	[設定] [編集]

この画面では、上部に IntraGuardian2 の設定メニューが常時表示されます。



設定の内容に関しては、IntraGuardian2 のスタートアップガイドをご参照ください。

12.1 一括設定

「動作設定」及び「通知設定」の画面には、[全IntraGuardian2を設定] ボタンがあります。現在の設定を他の全ての IntraGuardian2 にも適用する場合にクリックしてください。

The screenshot shows a dialog box for batch settings. It contains a text input field labeled '巡回実行間隔(秒)' with the value '15'. Below the input field are two buttons: '設定' and '全 IntraGuardian2 を設定'.

また、「再起動」画面には、[全 IntraGuardian2 を再起動する] ボタンがあります。IntraGuardian2一覧に登録されている全ての IntraGuardian2 を再起動させたい場合には、このボタンをクリックしてください。

12.2 特殊な設定

1ブロードキャストセグメントで 1024台以上の登録済みPC を管理する場合は、IntraGuardian2 のデータベース保存場所を「IG2 Manager」に変更する必要があります。データベース保存場所は、IntraGuardian2 の設定メニューの「設置設定」内にあります。(IntraGuardian2 EXシリーズはデータベース保存場所に関係無く 10000台まで登録可能です。)

データベース保存場所は、IntraGuardian2 の設定メニューの「設置設定」内にあります。



設定を変更する際、以下の確認ダイアログボックスが表示されます。本当に変更する場合は [OK] ボタンを、操作を取りやめる場合は [キャンセル] ボタンをクリックします。



IntraGuardian2 本体	登録済みPCの情報は、IntraGuardian2 本体に保存されます。登録できる PC の数は、IntraGuardian2 (IG2-01PL)の場合 1024、IntraGuardian2 EX (IG2EX-08VL, IG2EX-16VL)の場合 10000 が上限となります。
IG2 Manager	IntraGuardian2 が起動するときに、登録済みPC の情報を本ソフトウェアから取得するようになります。登録できる PC の数は 10000 になりますが、起動時に本ソフトウェアと通信できなかった場合、登録済みPCの情報を得ることができなくなります。

- * データベース保存場所を「IG2 Manager」にした場合、IntraGuardian2 の起動時に何らかの理由で本ソフトウェアと通信ができないと、IntraGuardian2 は不正PCの検知作業を一時的に停止します。この際、IntraGuardian2 は数秒毎に本ソフトウェアとの通信を再試行しますが、数回に渡って通信失敗が

続くと、通信再試行の間隔は数分に延びます。通信に成功して登録済みPC一覧を獲得すると、IntraGuardian2 は通常の動作に戻ります。

12.3 登録PCデータベースのコピー

本ソフトウェアを使うと、ある IntraGuardian2 に登録されているPCの一覧を他の IntraGuardian2 に簡単にコピーすることができます。

まず、[IntraGuardian2一覧] メニューの画面から、コピー元となる IntraGuardian2 の [設定] ボタンをクリックします。

現れた画面の [ホスト登録] をクリックして、その IntraGuardian2 に登録されているPCの一覧を表示します。



MACアドレス ベンダー	名称	IPアドレス (登録アドレス)	コンピュータ名 ワークグループ	確認日時 (登録日時)	操作
00:14:5E:00:00:00 <IBM>	山田太郎デスクトップ	192.168.0.100 (---)	TYAMADA_DESKTOP WORKGROUP	12/08 11:25:48 (2009/11/18 18:14:11)	編集 削除
00:0B:97:00:00:00 <Matsushita Electric>	山田花子モバイル	192.168.0.10 (---)	TYAMADA_MOBILE WORKGROUP	12/08 11:26:29 (2009/11/18 18:21:02)	編集 削除
00:A0:DE:00:00:00 <YAMAHA>	IT事業部ルーター	192.168.0.2 (192.168.0.2)		12/08 11:26:39 (2009/11/18 18:21:55)	編集 削除
00:11:0C:00:00:00 <Atmark Techno>	業務サーバー	192.168.0.50 (192.168.0.50)	DB-SERVER WORKGROUP	12/08 11:27:00 (2009/11/18 17:01:20)	編集 削除

一覧表の上に表示されている [登録コピー] ボタンをクリックすると、次の画面が現れます。



登録PC一覧のコピー

IT事業部の登録PC一覧を以下の IntraGuardian2 にコピーします。

対象 IntraGuardian2

技術1課 技術2課 総務

コピー先となる IntraGuardian2 の名前の左のチェックボックスをクリックしてチェックマークをつけ、[実行] ボタンをクリックすると、登録PCデータベースがコピーされます。

* 後述する、「一括管理モード」で運用している場合には、常に全ての IntraGuardian2 で同じ登録PCデータベースを共有しているため、本機能は利用できません。「一括管理モード」については、【15 Manager設定】の「その他の設定」の項目をご覧ください。

12.4 NAT内の IntraGuardian2

IntraGuardian2 がNAT環境の内側に設置される場合、IntraGuardian2 が動作するネットワークアドレスと、Manager が IntraGuardian2 にアクセスするときのネットワークアドレスが異なります。この場合、IntraGuardian2 一覧画面で [編集] ボタンをクリックして、「IntraGuardian2 登録変更」画面を出します。

選択	名称▼	IPアドレス	型式	状態	動作モード	DB保存場所	操作
<input type="checkbox"/>	埼玉工場2F	219.101.47.162	IG2-01PL				設定 編集

IntraGuardian2 登録変更

IntraGuardian2 の登録変更を行います。
下の各項目に入力後、確定ボタンを押してください。
(名称とIPアドレスを同時に変更することはできません)

名称	<input type="text" value="埼玉工場2F"/>
IPアドレス	<input type="text" value="219.101.47.162"/>
	<input checked="" type="checkbox"/> NAT環境下に設置

この画面の [NAT環境下に設置] にチェックマークをつけ、IPアドレスにはManagerからIntraGuardian2 にアクセスするときのIPアドレス (NATの外側のアドレス) を入力します。

このようにしておく、IntraGuardian2 自身の設置設定画面でネットワークアドレスを変更しても、Managerはそれに関係なく、上記登録画面で指定したアドレスでIntraGuardian2 と通信を行ないます。

- * Manager がNAT環境下に設置される場合は、IntraGuardian2 本体の設置設定画面にある、「IG2 Manager アドレス」欄に IntraGuardian2 から ManagerにアクセスするときのIPアドレス (Manager のNATの外側のアドレス) を入力してください。

13 ファームウェア更新

本ソフトウェアからは、複数の IntraGuardian2 ファームウェアを一括して更新することが可能です。

- (1) ファームウェア更新に先立ち、更新対象の IntraGuardian2 を一度再起動しておきます。メニューの「IntraGuardian2 一覧」をクリックし、更新対象の IntraGuardian2 の行の [設定] ボタンをクリックします。
- (2) 上部メニューの [再起動] をクリックし、[この IntraGuardian2 を再起動する] ボタンをクリックします。



1, 2 を繰り返して更新対象となる IntraGuardian2 を全て再起動します。

* 登録されているほとんど全ての IntraGuardian2 を更新する場合には、[全 IntraGuardian2 を再起動する] ボタンをクリックして、一度に再起動しても構いません。

(3) 2分ほど待ちます。

(4) メニューから「ファームウェア更新」をクリックし、ファームウェア更新画面を表示させます。



(5) [ファイルを選択(※)] ボタンをクリックし、あらかじめ製品サポートサイトからダウンロードしておいた、IntraGuardian2 の更新ファームウェアを選択します。

* Internet Explorer の場合には [参照]、Firefox の場合には [選択] となります。

(6) 更新対象の IntraGuardian2 のチェックボックスにチェックを入れます。

* IntraGuardian2 EXシリーズの場合、全VLANセグメント中のIntraGuardian2の内1つだけ更新対象としてチェックできるようになります。上記画面では、総務 と 技術1課、技術2課 と 営業1課 は、それぞれ1台のIntraGuardian2 EXで監視されたセグメントですが、その内1つだけチェックできるようになっています。この場合でも対象の機器は共通の1台なので、両セグメントとも正常に更新されます。

(7) 今すぐ更新する場合は、[今すぐ更新] ボタンを、更新を予約する場合は、[更新予約] ボタンをクリックします。

* 更新予約をした場合、バックグラウンドで定期的に IntraGuardian2 のバージョンが確認され、選択されたファームウェアファイルと異なる場合にはリモートバージョンアップを実行します。本画面を開きっぱなしにしておく必要はありません。

IntraGuardian2 のカーネル (OS) のバージョンアップを行う場合には、ファームウェアファイルとしてカーネル用のファイルを選択してください。

* カーネルのバージョンアップは更新予約をする事ができません。「今すぐ更新」で更新してください。

更新ファームウェアには、IntraGuardian2 の機種に応じて以下の種類が存在します。

はじめて更新ファームウェアを適用すると、適用したファームウェアにより、「現在選択中のファームウェアファイル **機種名**」欄が「None (Version UNKNOWN)」からバージョン番号の入った表記に変わります。

チェックしたIntraGuardian2の機種用のファームウェアファイルが「None (Version UNKNOWN)」で、なおかつ現在適用しようとしているファームウェアファイルも対象用では無い場合、「この IntraGuardian2 はファームウェア更新ができません」というエラーメッセージが表示されます。なお、この時そのファームウェアで更新可能なIntraGuardian2 もチェックされていた場合、更新可能な IntraGuardian2 は正常にアップデートされます。

それぞれの機種に対応したファームウェアファイルの名前は、次のとおりとなっております。

IG2-01PL用	IntraGuardian_Firmware_バージョン番号.bin または、 IntraGuardian_A220_Firmware_バージョン番号.bin
IG2-02PL用	IntraGuardian_A420_Firmware_バージョン番号.bin
IG2EX-08VL用	IntraGuardian_A440UM_Firmware_バージョン番号.bin

IG2EX-16VL用

IntraGuardian_A440VM_Firmware_バージョン番号.bin

14 バックアップ/復元

複数の IntraGuardian2 の基本設定や登録済みPC一覧を一斉にバックアップ / 復元する場合や、本ソフトウェアの設定をバックアップ / 復元する場合には、メニューから [バックアップ/復元] をクリックし、バックアップ/復元 画面を表示させます。

* 個別の IntraGuardian2 のバックアップ作業を行う画面は、【12 IntraGuardian2 の設定】で説明した画面内にあります。



(1) 操作の対象 ([基本設定] / [登録済みPC一覧] / [例外IPアドレス一覧] / [Manager設定]) をリストから選択します。

(2) 実行したい内容にあわせて操作 ([バックアップ] / [復元] / [復元ファイルチェック]) を選択します。

(3) 復元を実行する場合には [ファイルを選択(※)] ボタンをクリックし、あらかじめバックアップしておいたファイルを選択します。

* Internet Explorer の場合には [参照]、Firefox の場合には [選択] となります。

(4) 操作の対象にて [基本設定] / [登録済みPC一覧] / [例外IPアドレス一覧] を選択した場合は、対象とする IntraGuardian2 にチェックを入れます。

(5) [実行] ボタンをクリックすると、バックアップ / 復元 を実行します。操作にて [バックアップ] を選択した場合、バックアップファイルのダウンロードが開始され、[復元] を選択した場合は、バックアップファイルからの復元が開始されます。

* IntraGuardian2 の基本設定、登録済みPC一覧および例外IPアドレス一覧のバックアップでダウンロードされるファイルは、IntraGuardian2 単体のバックアップ操作でダウンロードされるファイルをZIPフォーマットで結合・圧縮したものです。

- * “.zip”拡張子のファイルを自動的に展開する機能を持つブラウザをお使いの場合、自動展開機能をオフにしてください。
- * 工場出荷状態の IntraGuardian2 は、IPアドレスが初期状態の”192.168.100.1”で、「IG2 Manager を使用しない」という設定になっているため、基本設定の復元を含め、Managerとの通信は一切できないようになっています。IntraGuardian2を交換する際には、IntraGuardian2 スタートアップガイドの記述に従って、IntraGuardian2 本体のWeb管理画面を使って基本設定を行なってください。

15 Manager設定

IntraGuardian2 が正常に動作しているかの確認(生存確認)の設定や、PC を登録する際の動作を変更することができます。

Manager 設定 を行う場合は、メニューから [Manager設定] をクリックし、Manager設定画面を表示します。

15.1 生存確認

The screenshot shows the 'Manager設定' window with the following settings:

- 生存確認設定**
 - IntraGuardian2 生存確認間隔(分): 5
 - PC移動確認間隔(分): 30

*0を指定するとPC移動確認処理を行いません。

IntraGuardian2 生存確認間隔(分)	IntraGuardian2 が正常に動作しているか確認する間隔を指定します。
PC移動確認間隔(分)	IntraGuardian2 管理セグメント間でPCの移動があったかどうかを確認する時間間隔です。 0を指定するとPC移動検知を行いません。

15.2 通知設定

IntraGuardian2 が正常に動作していなかった場合の通知メールの宛先などを指定します。「メール通知を有効にする」にチェックマークを付けると、次の項目が入力できます。

The screenshot shows the '通知設定' window with the following settings:

- メール通知を有効にする**
- 宛先: admin@example.com
- SMTPサーバ: smtp.example.com
- ポート番号: 25
- 送信元: ig2m@example.com
- 認証方式:
 - なし
 - POP before SMTP
 - SMTP-AUTH
- メールの件名 (IG通信失敗通知): 【IntraGuardian2 Manager】 イベント通知
- メールの件名 (PC移動監視通知): 【IntraGuardian2 Manager】 イベント通知

宛先	送信先のメールアドレスです。 宛先を複数指定する事はできません。
SMTPサーバ	メール送信サーバのホスト名またはIPアドレスです。
ポート番号	メール送信サーバ上の送信用ポート番号です。通常、25か587です。
送信元	通知メールの From: ヘッダになるメールアドレスです。
認証方式	メール送信サーバでの送信認証方式です。なし / POP before SMTP / SMTP-AUTH のいずれかを選んでください。POP before SMTP か SMTP-AUTHを選択した場合には、詳細情報も入力してください。
メールの件名 (IG通信失敗通知)	IntraGuardian2 と通信できなくなったときに送られる通知メールの Subject: ヘッダになる文字列です。日本語も使用できます。
メールの件名 (PC移動監視通知)	異なる IntraGuardian2 管理セグメント間でPCが移動した事を検知したときに送られる通知メールの Subject: ヘッダになる文字列です。日本語も使用できます。

15.4 外部システムとの連携



外部システムとの連携機能を使うかどうかを選択します。

外部システム連携についての詳細は、【16 外部システム連携】をご覧ください。

15.5 その他の設定

その他の設定

端末登録モード	<input checked="" type="radio"/> 個別登録 <input type="radio"/> 一括登録
Syslogポート番号	514
ログインセッションタイムアウト(分)	30
IntraGuardian2 グループ管理	<input checked="" type="radio"/> グループ管理しない <input type="radio"/> グループ管理する

端末登録モード	<p>複数の IntraGuardian2 に同一の PC データを適用する場合は [一括登録]、個別のデータを用いる場合は [個別登録] を選択します。</p> <p>* 一括登録を選択した場合には、登録されている全ての IntraGuardian2 は自動的に「データベース保存場所 = IG2 Manager」に切り替わります。</p>
Syslogポート番号	Syslogサーバ機能の待ち受けポートを指定します。
ログインセッション タイムアウト(分)	<p>操作を行なわない状態が続いた場合にセッションを無効化するまでの時間を設定します。</p> <p>* 無操作状態がここで指定した時間続いた時点で画面が自動的に切り替わるわけではありません。次に操作しようとしたときにセッションがタイムアウトしたという表示が出て、ログインからやり直す事になります。</p>
IntraGuardian2 グループ管理	<p>IntraGuardian2 をグループ分けして管理するかどうかを設定します。工場出荷時には「グループ管理しない」になっています。</p> <p>* グループ管理については【21 グループ管理】をご覧ください。</p>

- * 端末登録モードを個別登録から一括登録に切り替える際に、IntraGuardian2 と通信ができない状態にある場合には、「データベース保存場所」が正しく切り替わりません。個別の IntraGuardian2 の設置設定画面を開き、設定保存をやり直してください。

端末登録モードが「一括登録」の場合、さらに、次の設定項目が現れます。

その他の設定

端末登録モード	<input type="radio"/> 個別登録 <input checked="" type="radio"/> 一括登録
登録PCの定時同期	<input checked="" type="checkbox"/> 同期する
同期時刻	3 時 0 分
Syslogポート番号	514
ログインセッションタイムアウト(分)	30
IntraGuardian2 グループ管理	<input checked="" type="radio"/> グループ管理しない <input type="radio"/> グループ管理する

登録PCの定時同期	[同期する] にチェックマークを入れると、各 IntraGuardian2 は、1日1回、登録PCデータベースを Manager から取得し直します。
同期時刻	上記の同期動作を行う時刻を指定します。分の欄は0で固定です。

Managerと IntraGuardian2 をつなぐネットワークの動作が不安定な場合などには、Managerで登録操作を行なった情報が一部の IntraGuardian2 本体に伝わらないために、一括登録モードであるにも関わらず、IntraGuardian2 間で登録情報に食い違いが生じてしまうことがあります。

このような場合には、1日1回、強制的に Managerが保有する登録PCデータベースを全 IntraGuardian2 に送付することにより、確実な運用を行うことができます。

登録同期作業が失敗した場合（同期時刻に一部の IntraGuardian2 と通信不能であった場合など）には、それを通知するメールが【15.2 通知設定】で設定した宛先に送られます。

* 同期時刻は、深夜などのネットワーク負荷が少なく影響が少ない時刻に設定する事をお勧めします。

16 外部システム連携

本ソフトウェアは、他の接続監視システムなどとPC登録情報を共有するなどの連携機能を持っています。

16.1 登録PCデータの取り込み

簡単なCSVファイルから、登録PCデータを取り込む機能です。特定のファイルを監視し続けて、ファイルが変化する度に自動的に登録PCデータを取り込み直すこともできます。

まず、Manager設定画面にある、「登録PCデータベースの取り込み」の「連携機能を使う」を選択し、設定をします。



すると、メニューに「外部システム連携」という項目が表示されます。



このメニュー項目をクリックすると次の画面が現れますので、連携機能に必要な設定項目を入力します。

取り込みモード	差し替え: 現在のPC登録情報を全て破棄し、取り込んだ登録情報に差し替えます。 追加取り込み: 現在のPC登録情報に、取り込んだPC情報を追加登録します。
データファイル名	外部システムから登録PCデータを取り込む際のファイル名をフルパスで指定します。
確認間隔	上記ファイルの更新を確認する時間間隔を指定します。単位は秒です。 * 0を指定すると、登録PCデータを自動的に取り込む機能は動きません。
登録PCデータをアップロードする	ウェブブラウザからファイルをアップロードし、それを取り込ませる場合に、この欄でファイルを選択します。

[設定] ボタンをクリックすると、入力した内容を保存し、その設定で動作を開始します。アップロードファイルが指定されている場合、アップロードされたファイルを「データファイル名」で指定したファイルに書き込んで保存します。(次の確認間隔の時刻にそれが取り込まれます。)

[すぐに取り込む] ボタンをクリックすると、指定した登録PCデータファイルを取り込みます。アップロードファイルが指定されている場合、アップロードされたファイルを取り込みます。

自動取り込みか手動取り込みが1度でも行なわれたことがある場合、本画面の下部にその履歴が表示されます。（直近の10件まで。）

最近の取り込み履歴			
2010/11/20	14:27:31	手動追加取り込み: 1220件の登録をインポートしました。	詳細表示
2010/11/19	20:20:11	手動追加取り込み: 82件の登録をインポートしました。	詳細表示
2010/11/19	09:11:54	自動取り込み: 2033件の登録をインポートしました。	詳細表示

取り込み作業にエラーが発生した場合には赤文字で、取り込みに成功したが、何件かの無効な情報があった場合にはピンクの文字で表示されます。

履歴の各行の右にある [詳細表示] ボタンをクリックすると、その履歴内容の詳細情報が表示されます。

16.2 取り込みファイルフォーマット

取り込みに用いるファイルは、CSV形式のファイルで、次のフォーマットです。

カラム	内容	例
第1カラム	MACアドレス（コロン区切り）	00:03:2A:04:8F:2A
第2カラム	ネットワークアドレス	192.168.100.0
第3カラム	ネットマスク	255.255.255.0
第4カラム	IPアドレス（省略可）	192.168.100.84
第5カラム	名称（省略可）	営業共用008

- * ネットワークアドレスは、必ず設定して下さい。ここで指定されたネットワークを監視している IntraGuardian2 にのみ、この設定情報が伝わります。
- * 同じPCを複数の IntraGuardian2 に登録する場合には、MACアドレスが同じで、ネットワークアドレスが異なるレコードを複数記述して下さい。（端末登録モードを「一括登録」で運用している場合を除く。）
- * 指定したネットワークアドレスのセグメントを監視している IntraGuardian2 が Managerに登録されていない場合、そのレコードは無効になります。
- * IPアドレスを指定すると、IntraGuardian2 は、MACアドレスが登録されていても指定IPアドレスと異なるIPアドレスを使っているPCを不正機器と判断します。（当該IntraGuardian2が「登録PCのIPアドレス監視機能を有効にする」になっている場合。） IPアドレスが省略された場合、そのPCのIPアドレス制限は行なわれません。
- * 名称が省略された場合、IPアドレスが指定されていればIPアドレスが、IPアドレスが指定されていなければMACアドレスが名称になります。

- * 名称に日本語を用いる場合にはShift-JISコードを用いて下さい。
- * 名称の長さは、全角で10文字以内、英数字で30文字以内にして下さい。
- * 名称にカンマを含む事はできません。
- * 各項目の前後についた空白文字は無視されます。また、各項目値をクオート文字やダブルクオート文字で囲まないで下さい。
- * 項目数が5未満の行（カンマが3個以下しかない行）は無効情報となります。
- * 6カラム目以降のデータは全て無視されます。（ついていても構いません。）
- * 改行コードは CR または CR+LF をお使いください。

17 ユーザー管理

工場出荷状態では、本ソフトウェアにログインできるユーザーは、“admin”（システム管理者）と“user”（閲覧のみのユーザー）の2つだけになっていますが、このログイン名を変更したり、新たに閲覧のみのユーザーを追加することができます。

* なお、後述するグループ管理機能を利用している場合には、本画面の動作は大きく変わります。【21 グループ管理】をご覧ください。

17.1 ユーザーの追加

メニューから [ユーザー管理] を選択します。

選択	ユーザー名	説明	管理権限	閲覧のみ権限	操作
<input type="checkbox"/>	admin	システム管理者	○		編集
<input type="checkbox"/>	user	閲覧用ユーザー		○	編集

上にある、[新規登録] ボタンをクリックすると、次の画面が現れます。

ユーザー名称	ログイン時に用いる名前を指定します。 半角英数記号（`,`(カンマ)を除く）で、4文字以上16文字以内です。
説明	ユーザーの説明文。 `,`(カンマ)以外の任意の文字で32文字以内です。
パスワード	そのユーザーでログインする際のパスワードです。 半角英数記号（`,`(カンマ)を除く）で、4文字以上16文字以内です。

再入力	同じパスワードを再度入力します。
------------	------------------

新しく追加したユーザーは、常に「閲覧のみ」のユーザーになります。（PCの登録や変更、IntraGuardian2の追加や設定、ファームウェア更新、設定復元、Manager設定変更、ユーザーの追加や変更ができません。）

* ユーザーは何名でも登録できますが、20名以下程度にしておいたほうが、様々な表示が見やすくなります。

17.2 ユーザーの編集

ユーザーの情報を変更するには、ユーザー一覧表の中の [編集] ボタンをクリックします。

新規登録と同じ画面が表示されますので、変更する部分を書き変えて [確定] ボタンをクリックしてください。

なお、パスワードを変更しない場合には、パスワード欄、再入力欄ともに空欄にしてください。

17.3 ユーザーの削除

ユーザー一覧表の中の、ユーザー名の左側にあるチェックボックスにマークをつけた後に [削除] ボタンをクリックすると、マークをつけたユーザーを削除することができます。

なお、システム管理者は削除することはできません。



18 パスワード設定

管理画面へログインする際に入力するパスワードを変更する事が可能です。

メニューから [パスワード設定] をクリックすると、パスワードを設定する画面が表示されます。「新しいパスワード」および「再入力」に新しいパスワードを入力後、[確定] ボタンをクリックすることで、パスワードが変更できます。

* 本画面で変更できるのは、現在ログインしているユーザーに対するパスワードだけです。他のユーザーのパスワードを変更する場合には、【17.2 ユーザーの編集】をお読みください。

新しいパスワード	4文字以上16文字以内の半角英数記号を入力します
再入力	入力ミスを防止するために、上記の新しいパスワードを再度入力します

パスワード設定

パスワードの変更を行います。
新しいパスワードを入力後、確定ボタンをクリックして下さい。

新しいパスワード

再入力

設定

パスワードの変更に成功すると、以下のメッセージが表示されます。

パスワード設定

パスワードを変更しました

19 操作履歴

ManagerのUI画面を使って行なった様々な操作の履歴を見ることができます。

メニューから [操作履歴] をクリックすると、次のような画面が出てきます。

日時	分類	レベル	画面	ユーザー	内容
2010/06/08 17:07:53	セッション	NOTICE		admin	logged in
2010/06/08 17:07:51	セッション	ERR	logout	admin	Session timeout.
2010/06/08 16:19:10	セッション	NOTICE		admin	logged in
2010/06/08 16:19:05	セッション	ERR	basic	admin	Session timeout.
2010/06/08 11:03:39	セッション	NOTICE		admin	logged in
2010/06/08 11:03:36	セッション	ERR	all_host	admin	Session timeout.
2010/06/08 10:33:21	登録PC変更	NOTICE	all_host	admin	Unregister host 00:60:E0:48:15:23 from all IG
2010/06/08 10:18:18	Manager設定	NOTICE	manager	admin	Change manager configurations
2010/06/08 10:18:15	Manager設定	NOTICE	manager	admin	Change hostdb registry mode to BATCH
2010/06/08 10:18:15	Manager設定	NOTICE	manager	admin	Change IgHealth.ini

最新の操作履歴が一番上に表示されます。

「分類」の欄のチェックマークをクリックすると、表示する内容を変えることができます。それぞれの分類は、おおよそ次の操作に対応します。

セッション	ログイン/ログアウト/ログイン失敗など
登録PC変更	登録PCの追加/削除/変更など
IntraGuardian2設定	IntraGuardian2の登録/削除/設定変更など
Manager設定	Manager設定の変更など
グループ設定	IntraGuardian2グループ設定の登録/変更など
ユーザー設定	Managerにログインできるユーザーの登録/変更など
履歴削除	古い操作履歴、古い検知履歴、古いPC移動履歴の削除など

バックグラウンド プロセス	IntraGuardian2の生存確認を行なっているバックグラウンドプロセスの再起動など
UIメッセージ	UIの操作結果として表示されたメッセージ文

「レベル」は、内容のおおまかな重要度で、これによって表示内容を限定することができます。

DEBUG	通常の動作の経過報告など
INFO	通常の動作結果など
NOTICE	設定変更などの重要な操作
WARNING	正常に処理ができなかった場合など
ERR	処理結果に異常が発生した場合など
CRIT	致命的な動作異常が発生した場合など

[CSV出力] ボタンをクリックすると、現在表示している内容をCSV形式のファイルとしてダウンロードすることができます。

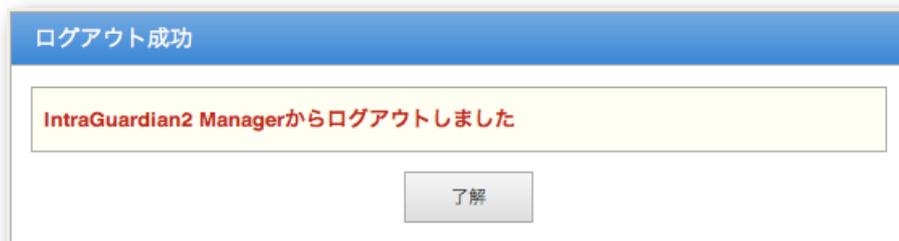
[全ログファイル出力] ボタンをクリックすると、現在の表示内容選択に関係なく、全ての操作履歴情報の元データファイルをダウンロードすることができます。

* 全ログファイル出力で得られるファイルは、最大で100MB程度になることがあります。

なお、操作履歴は最大100MBまで保持され、10MB単位で古い履歴から自動的に削除されてゆきます。

20 ログアウト

メニューから [ログアウト] をクリックすることで管理画面からログアウトできます。ログアウトに成功すると以下の画面が表示され、[了解] ボタンをクリックすることで、ログイン画面に戻ることができます。



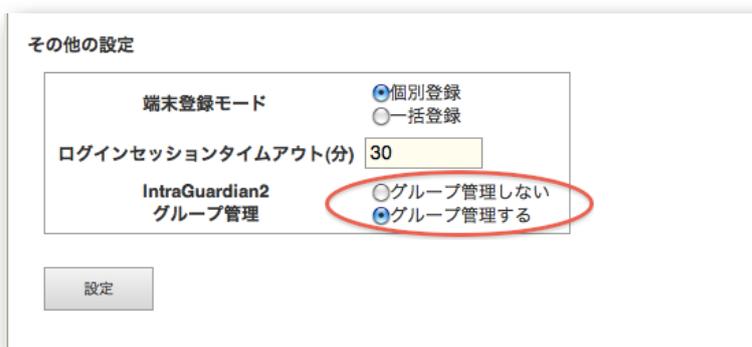
21 グループ管理

多くの数の IntraGuardian2 を本ソフトウェアで管理している場合、例えば地区ごとや部門ごとに IntraGuardian2 をグループ化したほうが扱いやすくなります。

21.1 グループ管理機能を有効にする

[Manager設定] メニューを選択して現れる画面の下にある、「IntraGuardian2 グループ管理」という欄を確認してください。

グループ管理機能を利用したい場合には、[グループ管理する] の左側のチェックマークを付けて、[設定] ボタンを押してください。



- * グループ管理機能の有効/無効の切り替えで失われる情報は全くありません。今までグループ管理をしていなかったものをグループ管理に変更するのも、逆にグループ管理していたものをやめる場合も、安全に切り替えることができます。



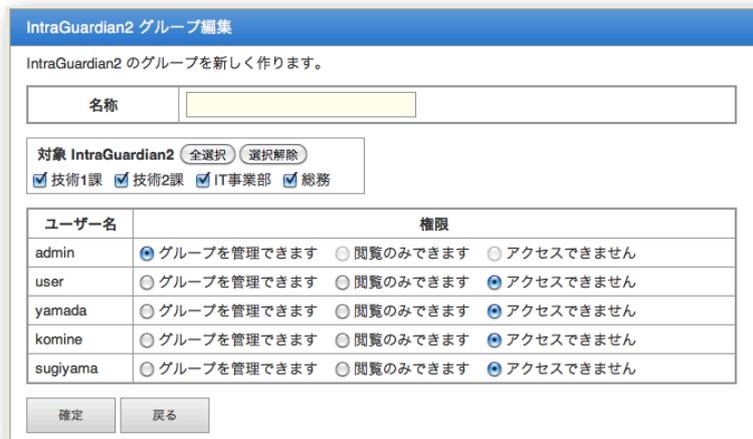
グループ管理機能が有効になっている場合には、左側のメニューに「グループ管理」という項目が現れます。

21.2 グループの追加

新たな IntraGuardian2 グループを設定したい場合には、[グループ管理] メニューをクリックします。



すると、現在のグループの一覧が表示されますので、[新規登録] ボタンをクリックします。



名称	グループに付ける名称。 '(シングルクォート)と,(カンマ)以外の任意の文字を使用できます。
対象IntraGuardian2	登録されている全ての IntraGuardian2 の名前が表示されますので、このグループに所属させたい IntraGuardian2 にチェックマークを付けます。 * 同じ IntraGuardian2 を複数のグループに所属させることもできます。
ユーザー名	本ソフトウェアに登録されている全ユーザーの名前です。
権限	そのユーザーがこれから作るグループに対して持つ権限を設定します。 * システム管理者("admin")は常に全てのグループを管理する権限を持ちますので、「グループを管理できます」しか選択できません。

必要な部分を入力／選択して [確定] ボタンをクリックすると、そのグループが登録されます。

- * グループはいくつでも登録できますが、30個以下程度にしておいたほうが、様々な画面が見やすくなります。
- * グループに所属する IntraGuardian2 の数はいくつでも構いませんが、20台以下程度にしておいたほうが、様々な画面が見やすくなります。
- * グループを登録した後に追加登録されたユーザーは、自動的にどのグループにもアクセス権限を持たない状態になります。
- * グループを登録した後に追加登録された IntraGuardian2 は、「全IntraGuardian2」グループ以外のどのグループにも所属しない状態になります。

21.3 グループの設定変更

グループの一覧画面の [編集] ボタンをクリックすると、新規登録と同様の画面が表示されますので、名称、所属する IntraGuardian2、各ユーザーのアクセス権限を変更することができます。

- * 「全IntraGuardian2」というグループは、システム管理者だけがアクセスすることができる特別なグループで、その内容を変更することはできません。

21.4 グループの削除

グループの一覧画面で、グループ名称の左側のチェックボックスを付けた後に [削除] ボタンをクリックすると、選択したグループを削除することができます。
グループを削除しても、グループに所属している IntraGuardian2 の登録内容や設定内容には全く変化はありません。



- * 「全IntraGuardian2」というグループは、システム管理者だけがアクセスすることができる特別なグループで、削除することはできません。

21.5 グループの選択

グループ管理機能を有効にすると、「全登録済みPC一覧」「全不正接続PC一覧」「全検知履歴」「PC移動履歴」「IntraGuardian2一覧」「バックアップ/復元」の各画面を表示する際に、右上にグループを選択する欄が現れます。



ここをクリックすると、現在ログインしているユーザーがアクセスすることができるグループの名称の一覧がプルダウンメニューとして現れますので、グループ名を選択して対象グループを変更することができます。

- * 現在ログインしているユーザーがアクセスすることができるグループが1つしか無い場合には、そのグループ名が表示されるだけで、プルダウンメニューは表示されません。



グループを切り替えると、画面に表示する対象となる IntraGuardian2 が切り替わります。例えば、「IntraGuardian2一覧」では、そのグループに所属する IntraGuardian2 だけが表示されますし、「全登録済みPC一覧」ではそのグループに所属する IntraGuardian2 に登録されているPCだけが表示されます。

「PC移動履歴」では、移動元または移動先のいずれかの IntraGuardian2 がそのグループに所属する履歴が表示されます。例えば移動元の IntraGuardian2 がグループに所属しているが、移動先の IntraGuardian2 はグループに所属していないという場合には、移動先の欄が空欄になって表示されます。

「全IntraGuardian2」というグループは、システム管理者 (“admin”)だけが選択できる特別なグループです。

IntraGuardian2 を新たに登録したり、登録を削除する場合には、かならず「全 IntraGuardian2」グループを選択してください。

21.6 ユーザーの追加・変更

グループ管理機能を有効にすると、【17 ユーザー管理】で説明したユーザー管理画面の内容が大きく変わります。

ユーザー一覧画面は次のようになり、それぞれのユーザーがどのグループを管理したり閲覧できるのかがわかります。

Manager ユーザー管理					
新規登録					
選択	ユーザー名	説明	管理権限	閲覧のみ権限	操作
<input type="checkbox"/>	admin	システム管理者	全て		編集
<input type="checkbox"/>	user	閲覧用ユーザー			編集
<input type="checkbox"/>	yamada	山田係長	札幌支社, 函館営業所, 本社全体		編集
<input type="checkbox"/>	komine	小峰	本社2F, 本社3F	札幌支社, 長野研究所, 本社全体	編集
<input type="checkbox"/>	sugiyama	杉山	長野研究所	本社2F, 本社3F, 本社全体	編集

削除

ユーザー新規登録画面とユーザー編集画面には、各グループに対する権限を設定する一覧表が表示されます。

IntraGuardian2 ユーザー登録	
ユーザーの設定内容を変更します。	
ログイン名称	sugiyama
説明	杉山
パスワード	再入力:
*パスワードを変更しない場合は、パスワード欄と再入力欄を空欄にしてください。	
IntraGuardian2 グループ	権限
全IntraGuardian2	<input type="radio"/> グループを管理できます <input type="radio"/> 閲覧のみできます <input checked="" type="radio"/> アクセスできません
札幌支社	<input type="radio"/> グループを管理できます <input type="radio"/> 閲覧のみできます <input checked="" type="radio"/> アクセスできません
函館営業所	<input type="radio"/> グループを管理できます <input type="radio"/> 閲覧のみできます <input checked="" type="radio"/> アクセスできません
本社2F	<input type="radio"/> グループを管理できます <input checked="" type="radio"/> 閲覧のみできます <input type="radio"/> アクセスできません
本社3F	<input type="radio"/> グループを管理できます <input checked="" type="radio"/> 閲覧のみできます <input type="radio"/> アクセスできません
長野研究所	<input checked="" type="radio"/> グループを管理できます <input type="radio"/> 閲覧のみできます <input type="radio"/> アクセスできません
本社全体	<input type="radio"/> グループを管理できます <input checked="" type="radio"/> 閲覧のみできます <input type="radio"/> アクセスできません
確定 戻る	

- * ユーザーがグループに対して持つ権限は、ユーザー編集画面からでもグループ編集画面からでも変更ができます。どちらで行なっても構いません。
- * グループ管理機能を無効に切り替えると、グループ管理権限を持つユーザーも単なる閲覧のみのユーザーとして取り扱われることとなります。なお、再びグループ管理機能を有効に戻すと、以前設定していた権限の状態に戻ります。

22 アップグレードとアンインストール

IntraGuardian2 Manager を以前のバージョンからアップグレードする場合には、まず旧バージョンの Manager をアンインストールしてから、新バージョンをインストールします。

22.1 旧 Managerのアンインストール

- (1) IntraGuardian2 Manager の管理画面にログインします。
- (2) メニューの [バックアップ/復元] をクリックし、「対象」は「Manager設定」を、「操作」は「バックアップ」を選択します。
- (3) [実行] ボタンをクリックすると、ブラウザに Manager設定ファイル (igmanager-xxxxxxx.zip) が送られるので、それを保存しておきます。



※データベース保存場所がIntraGuardian2 本体以外をご選択の場合のみ (4) , (5) を実行して下さい

- (4) バックアップ対象を「登録済みPC一覧」に変え、「対象 IntraGuardian2」の [全選択] ボタンをクリックします。
- (5) [実行] ボタンをクリックすると、ブラウザに IntraGuardian2 登録済みPC一覧ファイル (hostdbcsv-xxxxxxx.zip) が送られるので、それを保存しておきます。

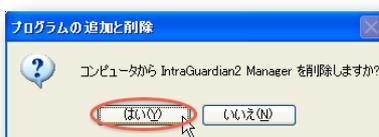


- * バックアップを取る順番は重要ではありません。「Manager設定」、「登録済みPC一覧（データベース保存場所がIntraGuardian2 本体以外の場合のみ）」のバックアップファイルが保存されれば結構です。
- * 「基本設定」、「例外IPアドレス」についてはIntraGuardian2本体に保存されている情報のため、ここでのバックアップは必要ありません。

(6) コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」を起動し、「IntraGuardian2 Manager」の欄を選択してから [削除] ボタンをクリックします。



(7) 削除の確認ダイアログが現れますので、[はい] をクリックします。

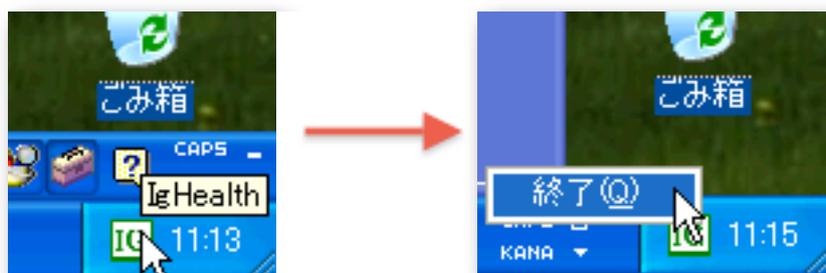


(8) OSのバージョンなどによっては、次のウィンドウが表示される事があります。



IntraGuardian2 Manager 2.0.2以降をアンインストールする場合には、[無視] ボタンをクリックしてください。

IntraGuardian2 Manager 2.0.1をアンインストールする場合には、このウィンドウはそのままにして、画面右下の「IG」アイコンを右ボタンクリックし、[終了] を選択します。



その後、先ほどのウィンドウの [再試行] ボタンをクリックしてください。

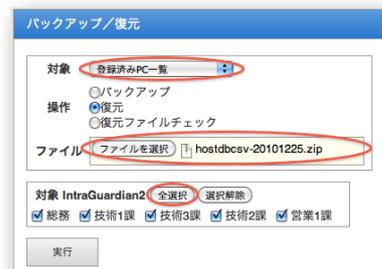
22.2 新 Manager のインストール

- (1) 【2.2 ファイルの展開】および【2.3 本ソフトウェアのインストール】の手順に従って、新 Manager をインストールします。
- (2) 新 IntraGuardian2 Managerの管理画面にログインします。
- (3) メニューの [バックアップ/復元] をクリックし、「対象」は「Manager設定」を、「操作」は「復元」を選択します。
- (4) 「ファイル」に旧 IntraGuardian2 Manager でバックアップした Manager設定ファイル (igmanager-xxxxxxx.zip) を指定し、[実行] ボタンをクリックします。



※データベース保存場所がIntraGuardian2 本体以外をご選択の場合のみ (5) , (6) を実行して下さい

- (5) 復元対象を「登録済みPC一覧」に変え、「対象 IntraGuardian2」の [全選択] ボタンをクリックします。
- (6) 「ファイル」に旧 IntraGuardian2 Manager でバックアップした IntraGuardian2 登録済みPC一覧ファイル (hostdbcsv-xxxxxxx.zip) を指定し、[実行] ボタンをクリックします。



- * 復元する対象の順番は重要です。必ず「Manager設定」「登録済みPC一覧」の順番に復元してください。
- * データベース保存場所がIntraGuardian2本体にデータを保存している場合は、登録済みPC一覧の復元の必要はございません。

Appendix

Appendix 1 ファイアウォール設定

1.1 Windows Server 2008R2 で80番ポートの受信を許可する

コントロールパネルの「システムとセキュリティ」を開きます。



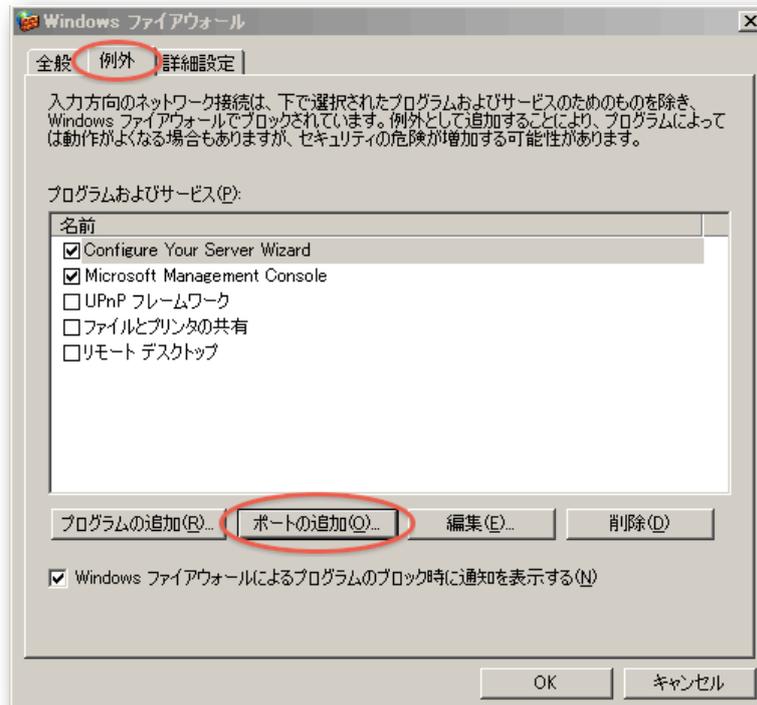
「Windows ファイアウォールによるプログラムの許可」をクリックします。



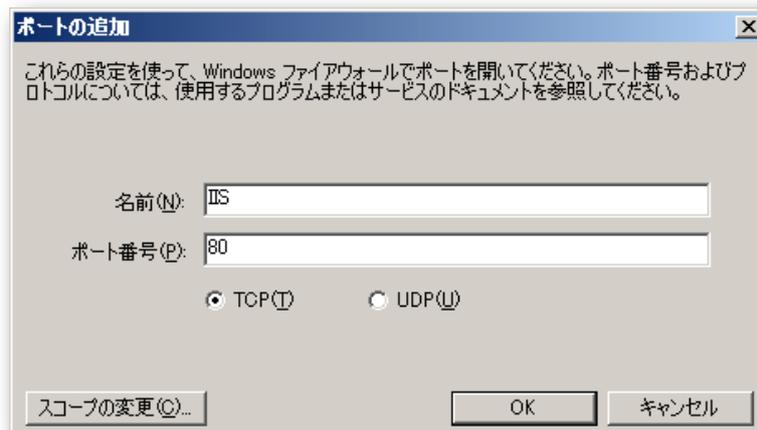
「World Wide Web サービス (HTTP)」という行を探し、その行の全てのチェックマークをつけてから [OK] をクリックします。

1.2 Windows Server 2003 で80番ポートの受信を許可する

コントロールパネルの「Windows ファイアウォール」を開き、「例外」の [ポートの追加] ボタンをクリックします。



下図のように記入し、[OK] ボタンをクリックします。



IntraGuardian2 Manager
スタートアップガイド
第21版
Version 2.3.3用
2012年11月16日

開発元 日本シー・エー・ディー株式会社
〒161-0033 東京都新宿区下落合2-14-1 CADビル
<http://www.ncad.co.jp/>